公益財団法人仙台市市民文化事業団
中期経営計画（2018-2020年度）
及び2018(平成30)年度事業報告の概要

1　中期経営計画案の全体像

本計画案は、2017年1月に策定した「市民文化事業団の事業運営に関する基本指針」にある5つの基本方針に基づき、2018年度から3ヵ年にわたって取り組む事業のねらいや方向性とともに、その実現を支える経営強化目標、収支計画等によって構成されています。

加えて初年度（2018年度/平成30年度）の事業報告について、概要を示しました。

定款 第３条 目的

この法人は、文化芸術の振興、郷土の歴史の継承及び生涯学習の支援に関する事業を行い、もって魅力ある市民の文化創造と豊かな市民生活の実現に寄与することを目的とする。

「市民文化事業団の事業運営に関する基本指針」

5つの基本方針

＜方針その１＞
資料の収集と活用
ミュージアム施設の管理・運営／常設展・企画展等の開催

＜方針その２＞
市民の文化活動への支援
活動者への支援・助成・協力／鑑賞機会の提供

＜方針その３＞
さまざまな人材の育成
講座・ワークショップ・市民協働型事業の実施／ボランティア組織の運営

＜方針その４＞
[楽都][劇都]の成長促進
音楽・舞台芸術の振興と創造・発信型事業の推進／劇場・音楽堂の活性化

＜方針その５＞
地域文化資源の活用
文化による地域共生社会の振興／新たな地域文化の創造

経営の強化

●人材の確保・育成

●経営基盤の強化

2　「市民文化事業団の事業運営に関する基本指針」基本方針と事業の概要

「市民文化事業団の事業運営に関する基本指針」より

＜方針その１＞ 資料の収集と活用　＊その２にも該当

歴史や伝統、多様な文化芸術に関する資料収集・調査研究とその成果の活用により、市民の暮らしに息づく文化の保存・伝承および総合的な文化の振興を図り、まちの魅力向上に活かします。

① 資料収集や調査研究を通じて、文化を育み活用する基盤の整備に寄与し、市民文化の振興に努めます
② 調査研究等で得られた成果を活用し、さまざまな手法でこれを市民に提供していくことで、市民が学びを楽しむきっかけをつくるとともに、「ミュージアム都市」として、継続的な学びを支援します
③ 長い年月の中で、災害や技術の進歩、ライフスタイルの転換などにより、変化し、喪失してしまう地域の記録や記憶を保存し、大切な文化資源としての活用を図ります

2018-2020年の方向性

2019年度の「仙台市歴史民俗資料館開館４０周年」「仙台文学館開館２０周年」を節目と捉え、両施設の周年事業を次の方針で計画・実施・検証するなど、今後の各ミュージアム運営に資する新しい業務に着手していきます。

・蓄積した資料や成果を国内外に向けて積極的に情報発信します
・施設の存在をさらに広く知ってもらうために、多彩な事業を実施し、新規の来場者を開拓します
・現在の施設運営課題を絞り込み、その解決のための新たな方策や事業を試行しながら、その効果を検証します

2018(平成30)年度　事業の概要　[経費／単位：千円]

「仙台市歴史民俗資料館40周年」「仙台文学館20周年」の節目の年に向けて、当年度はこれまでの成果の書籍化や、話題性のある新規事業を準備していく年と位置づけました。様々な展示事業の実施に加えて、仙台文学館開館20周年記念事業第一弾として、故・井上ひさし氏ゆかりの、こまつ座の注目公演を上演しました。

（1）ミュージアム施設の管理運営・資料収集・調査研究

ア　仙台市歴史民俗資料館 管理運営[61,744]（市指定管理料／No.76,83,84）
イ　仙台市富沢遺跡保存館 管理運営[87,781]（市指定管理料／No.86,93-97）
ウ　仙台市縄文の森広場 管理運営[45,790]（市指定管理料／No.99,102,106,107,109-114）
エ　仙台文学館 管理運営[189,042]（市指定管理料／No.115,122）

（2）常設展・企画展等の開催

ア　仙台市歴史民俗資料館 企画展等[2,445]（市指定管理料／No.77-80）
イ　仙台市富沢遺跡保存館 企画展等[14,508]（市指定管理料／No.87-91）
ウ　仙台市縄文の森広場 企画展等[14,735]（市指定管理料／No.100,101）
エ　仙台文学館 企画展等[12,501]（市指定管理料／No.116-121）

主な展示事業

・地底の森ミュージアム特別企画展「米づくり　はじめました」7/20(金)～9/24(月) No.89

東北地方を中心として、東日本でみつかった弥生時代から古墳時代の水田跡と稲作に関わる道具を紹介し、富沢遺跡で見つかった水田跡や関連資料と比較しながら展示を行った。（観覧者数：9,157人）

・仙台市歴史民俗資料館特別展「コメどころ仙台 ～コメの生産と消費の歴史～」11/17(土)～4/14(日) No.80
江戸時代以来、コメの生産地として知られた仙台平野とコメの消費地として人が集住した城下町・仙台の変遷から、機械化される以前のコメ作りの様子と現在のコメ作りが抱える問題点、コメ離れが進む食文化の変化などについて紹介した。（観覧者数：7,930人）

・仙台市縄文の森広場コーナー展示「仙山交流」（通年） No.101
仙台市域の遺跡を中心に、発掘調査から明らかとなった縄文時代の人々の暮らしについて、仙台・山形の遺跡を中心として紹介しながら実施した。（総観覧者数：8,064人）

・仙台文学館特別展「連載40周年記念 ガラスの仮面展」10/6(土)～11/25(日) No.120
1976年に連載を開始し、2016年で連載40周年を迎えた少女漫画の金字塔「ガラスの仮面」の貴重な漫画原画や関連資料を一堂に展観し、名シーンを振り返った。少女漫画ならではの乙女のきらめきや恋心、こまやかに表現されるキャラクターの心理描写、そして漫画でしか表現できない演劇の猛稽古や熱く演じられる劇中劇の数々を、原画で存分に楽しんでもらう展示とした。（観覧者数：7,323人）

仙台文学館開館20周年記念事業　※2019年度も実施

・こまつ座公演「イーハトーボの劇列車」3/16(土) No.50
仙台文学館初代館長・井上ひさしが座付作家を務めたこまつ座の「イーハトーボの劇列車」を上演。賢治の生涯を、この世に思いを残しながら死の世界へと旅立たなければならない、現代の農民たちによる劇中劇という入れ子構造で描いた戯曲であり、演出・長塚圭史、主演・松田龍平という新たな顔ぶれで、賢治の理想と挫折、そしてその根源にあった「東北」の姿を、改めて感じてもらった。（入場者数：537人）

＜方針その２＞ 市民の文化活動への支援

市民が行う自主的な学びや活動の場を提供し、さまざまな文化活動を支援することで、年代やライフステージに関わらず誰もが心豊かな市民生活を送り、地域が活性化することをめざします。

① 市民や市民団体が行う自主的な学びや活動を支援するとともに、市民が多様な文化に触れる機会を提供し、心豊かな暮らしと地域の持続的な発展に寄与することをめざします
② 多様な文化に関わる情報に誰もがアクセスできるよう、さまざまな手法による発信に努めます
③ 震災からの復興や地域づくりにおいて文化が果たしてきた役割を検証し、次代につないでいきます
④ 多様な年代・ライフステージに応じた学びと活動の機会を確保し、文化への理解と支援の拡大をめざします
⑤ 施設の利用者がいつも安全に安心して利用できる管理運営を行うとともに、さらなる魅力の向上を図ります

2018-2020年の方向性

当財団が果たしてきた市民活動支援の役割を維持継続していくとともに、既存の制度や仕組みの段階的な充実を図ります。加えて鑑賞者向け事業やサービスを、時代の変化を意識して再編成します。

・2020年度のせんだいメディアテークの開館２０周年を節目と捉え、次の１０年の方向性の検討をすすめ、周年事業を計画・実施します
・鑑賞者に向けた各種広報及び「市民文化事業団友の会」、制度改正後１０年余りが経過する「支援・助成・協力事業」の仕組み等を改めて検証し、それぞれ有効度の向上に取り組みます
・ホール系施設の劇場としての機能充実を目指し、より良い運営のための外部評価の充実や、文化庁等外部財源のさらなる獲得に努めながら、事業の充実を図ります

2018(平成30)年度　事業の概要　[経費／単位：千円]

生涯学習や市民活動支援を担う施設としてのせんだいメディアテーク、ホール系施設として施設の貸出・提供という形で文化活動を支える青年文化センター、泉文化創造センター、せんだい演劇工房10-BOXの管理運営や、「支援・助成・協力事業」などを通じて、多様な文化活動への支援を継続して行いました。また、質の良い鑑賞事業や情報提供事業、友の会事業など、文化芸術の愛好者に向けた事業も行いました。

（1）活動者への支援・助成・協力

ア　仙台市青年文化センター管理運営[346,748]（市指定管理料／No.124）
イ　仙台市泉文化創造センター管理運営[127,509]（市指定管理料／No.125）
ウ　せんだい演劇工房10-BOX・能-BOX管理運営[25,816]（市補助金・使用料等／No.59）＊その４にも該当
エ　せんだいメディアテーク管理運営・生涯学習支援事業[577,595]（市指定管理料／No.126,127）
　＊その３・その５にも該当
オ　支援・助成・協力事業[19,708]（市補助金・自主財源／No.1）＊その３・その５にも該当

（2）鑑賞機会の提供

ア　仙台文学館普及啓発事業[1,258]（市補助金／No.63,64）
イ　せんだいメディアテーク経常事業[56,758]（市補助金・助成金・入場料等／No.72-75）＊その５にも該当
ウ　事業課鑑賞事業[81,740]（市負担金・文化庁助成金・自主財源・入場料／No.5,8,10）＊その４にも該当
エ　共催事業／文楽・青葉能等[1,002]（自主財源／No.9）＊その４にも該当
オ　仙台市青年文化センター活性化事業＜子どもの夢ひろば”ボレロ”等＞[4,341]
　（自主財源・協賛金・入場料等／No.11）（自）＊その４にも該当
カ　仙台市泉文化創造センター活性化事業＜宝塚・寄席・ロビーコンサート等＞[29,960]（自主財源／No.4,7,12）
　＊その４にも該当
キ　仙台市歴史民俗資料館活性化事業＜れきみん秋祭り等＞[3,259]（自主財源・助成金／No.13,14,28）
ク　仙台市富沢遺跡保存館活性化事業＜冬キラ・狩人登場等＞[2,712]（自主財源・参加料等／No.15-17,19,20,28）
ケ　仙台市縄文の森広場活性化事業＜縄文まつり復元プロジェクト等＞[3,428]（自主財源／No.21-23,28）
コ　仙台文学館活性化事業＜ライブ文学館等＞[2,180]（自主財源・助成金・入場料等／No.24-26,28）
サ　せんだいメディアテーク活性化事業＜ホスピタリティ向上事業等＞[705]（自主財源／No.27,28）
シ　文化情報広報事業[5,241]（市補助金・自主財源／No.47）
ス　「市民文化事業団友の会」事業[3,248]（自主財源／No.48）

主な鑑賞事業

・宝塚歌劇雪組仙台公演　4/7(土)・4/8(日) No.4
仙台市民はもとより広域からの来場者で賑わう宝塚歌劇公演の東北拠点となる仙台公演を２日間４ステージで開催した。（入場者数：5,732人）

・青年文化センター活性化事業（通年） No.11
地域資源等を活用しながら、文化創造・交流拠点としての施設機能の充実と利用促進を図り、より市民に親しまれる施設に向けた事業を行った。（参加者数：のべ8,749人）

・弧の会 日本舞踊公演＆ワークショップ　3/2(土)・3/3(日) No.5
流派を超えて結集した男性日本舞踊家12名の「日本舞踊家集団・弧の会」による舞踊公演を実施した。また公演前日に小学生の親子を対象とした日本舞踊ワークショップを開催し、参加した子どもたちが翌日の公演前座にて弧の会メンバーと一緒に踊りを披露した。
（入場者数：348人/ワークショップ参加者：6人）

・ライブ文学館「恩田陸『蜜蜂と遠雷』を聴く」3/9(土) No.25
朗読、音楽、映像、演劇などを交えて、文学作品をひとつのステージとして構成するシリーズで、仙台ゆかりの作家・恩田陸の直木賞受賞作『蜜蜂と遠雷』をテーマに取り上げ開催した。（入場者数：542人）

・せんだいメディアテーク「ヒスロム 仮設するヒト」11/3(土)～12/28(金) No.73
身体を用いて土地を体験的に知る行為「フィールドプレイ」を各地で実践し、国内外から注目されているアーティストグループ「ヒスロム」が、28年度から調査や制作作業をおこなってきた成果を展覧会として発表した。（入場者数：4,995人）

事業リニューアルの検討着手

・支援・助成・協力事業　課題：アーカイブ分野等、新たな対象事業の取り込み
・広報事業／市民文化事業団友の会　課題：サービスの多様化・IT化／コストダウン
・文化庁劇場・音楽堂等活性化事業　課題：事業内容及び外部評価制度の充実
・せんだいメディアテーク開館20周年に向けての調査・準備

＜方針その３＞ さまざまな人材の育成

多様な文化活動に関わる人材のすそ野を広げ、子どもたちをはじめとする次世代や新たな担い手の育成に努め、文化に関わる市民力の向上をめざします。

① 子どもたちが優れた文化や地域の歴史に触れる機会を増やし、次代の文化の担い手としての成長を応援します
② 各種ボランティアやサポーターの活躍機会の拡大に努め、互いに交流・連携しながらスキルアップをめざす取り組みを応援します
③ 多様な文化の担い手となる人材を育成し、新たな文化の創造や地域文化の発展・継承をめざします
④ 地域に受け継がれてきた伝統や民俗芸能の継承を支援し、鑑賞の機会を増やして理解を広げ、地域への誇りや愛着を深めていきます

2018-2020年の方向性

市民の多様な興味関心に応えて、芸術文化に触れる機会を広く提供する講座・イベントから、表現活動のスキルアップを目的としたワークショップまで、豊かな文化活動の担い手育成のために多層的なプログラムを実施します。

・子どもから大人まで、文化を体験できる多様な事業を行います。
・地元のアーティスト、学芸員、指導者など向けに、受講者とのコミュニケーション方法や派遣先の地域や学校をつなぐコーディネート手法など、ワークショップを支える人材の育成を図ります。
・文化施設や大規模な文化事業を一緒に運営するボランティアの方々とは、ノウハウの情報共有を行っていきます。

2018(平成30)年度　事業の概要　[経費／単位：千円]

出演者公募による「ミュージカルプロジェクト」や、親子から中学生まで幅広い世代を対象にした「ダンスプロジェクト」など、幅広い市民に向けた体験の機会提供を通して、興味関心のきっかけとなるような講座やワークショップを数多く実施しました。また、仙台国際音楽コンクールや仙台クラシックフェスティバルを支えるボランティア事業をはじめ、当事者として文化事業を担っていただく機会の拡大にも努めました。

（1）講座・ワークショップの実施

ア　事業課人材育成事業[75,766]（市負担金・文化庁助成金・自主財源・受講料等／No.10）
イ　せんだい演劇工房10-BOX 舞台芸術人材育成事業[4,075]（市補助金・自主財源／No.30,32,33,37,39）
　＊その４にも該当
ウ　能-BOX 古典芸能人材育成事業[559]（市補助金・自主財源／No.34）＊その４にも該当
エ　東京藝術大学音楽学部早期育成プロジェクト[905]（自主財源／No.43）＊その４にも該当
オ　仙台文学館 学芸員出前講座・仙台文学館ゼミナール等各種文学講座[1,991]
　（市補助金・自主財源・受講料／No.45,65,67）
カ　仙台市歴史民俗資料館 子ども講座・たんけん資料館等各種講座、ワークショップ[74]（市指定管理料／No.81）
キ　仙台市富沢遺跡保存館 考古学講座・楽しい地底の森教室等各種講座・市民文化財研究員[1,183]
　（市指定管理料／No.92）
ク　仙台市縄文の森広場 発掘調査体験教室・夏休み子ども考古学教室等各種講座[1,979]
　（市指定管理料／No.103,104）
ケ　文化庁芸術家派遣事業（実行委員会参画／文化庁委託料／No.44）

（2）ボランティア組織の運営

ア　仙台国際音楽コンクール・仙台クラシックフェスティバル／ボランティア事業[1,788]
　（市負担金等／No.55）＊その４にも該当
イ　仙台文学館友の会支援事業（市補助金／No.70）
ウ　仙台市歴史民俗資料館サポーター養成事業[74]（市指定管理料／No.81）
エ　仙台市富沢遺跡保存館ボランティア事業[1,183]（市指定管理料／No.92）
オ　仙台市縄文の森広場ボランティア事業[168]（市指定管理料／No.105）

主な講座・ワークショップ

・ミュージカルプロジェクト（8月～3月） No.10人材育成①
市民及び地元のアーティストが協力して交流・協働・創造できる場を提供し、新たな文化の担い手（作り手・支え手）の育成を図ることから市民文化活動に関わる人材のすそ野をより一層広げることを目的として、2019年の上演に向けた新作ミュージカルの制作を行った。当年度はオーディションを行い、月1～2回のペースでステップ練習、基本発声、セリフ練習などミュージカルの基礎となるレッスンを継続実施した。（参加者：58人）

・ダンスプロジェクト（10月～3月）No.10人材育成②
子どもから大人までの幅広い年齢層を対象に、ダンスを通じて豊かで柔軟な発想を育み、想像力豊かなコミュニケーション能力を高める3プログラムを実施した。（参加者：72人）

・能-BOX「こどものための能講座」「能のおけいこ体験講座」（通年） No.34
能楽施設「能-BOX」を活用し、能楽への親しみと理解を深めるための講座を行った。
（参加者数：31人＋34人）

主なボランティア事業

・仙台国際音楽コンクール／仙台クラシックフェスティバル ボランティア No.55
会場運営サポートや広報活動サポート等を担うボランティアの募集と、第７回コンクールに向けての準備・研修等を行った。（登録者数：260名）

・地底の森ミュージアムボランティア No.92
展示解説や行事の際の業務補助などを行うボランティアの育成として、養成講座・研修会・自主研修活動の支援を行った。（登録者数：70名）

・仙台市縄文の森広場ボランティア No.105
各種体験活動の補助や展示解説を担うボランティアの募集と、より分かりやすい説明などのための研修事業を行った。（登録者数：69名）

＜方針その４＞［楽都］［劇都］の成長促進　＊その２・その３にも該当

「楽都」や「劇都」として、市民が参加し、育んできた文化をさらに成長させ、仙台の魅力として国内外に発信していきます。

① まちに音楽があふれ、誰もが気軽に楽しむことができる機会を拡充し、音楽を「する」「聴く」「支える」文化を育て、仙台の文化としての発信に努めます
② 子どもたちをはじめとする若い才能を育み、世界に羽ばたくチャンスをつくり、「楽都」の基盤を支えます
③ 舞台のつくり手と支え手の育成を支援するとともに、活躍の場を広げ「劇都」にふさわしい舞台芸術の振興に努めます
④ 多様な市民が集い、感動を共有する場である劇場等を地域における文化拠点として運営し、文化の継承・創造・発信の場として活用していきます

2018-2020年の方向性

・３年ごとに開催する「仙台国際音楽コンクール」は、2018年度に本格的な準備を行い、2019年度に第７回開催（５月～６月）、2020年度の第８回開催の概要広報まで、一連の業務を想定し、制作を進めるとともに、継続的に地域の音楽文化振興に寄与する関連事業を実施します。
・１２回の継続を経て市民に深く浸透した「仙台クラシックフェスティバル」を、新規性も加味しながら引き続き開催し、音楽ファンのさらなる拡大によって「楽都仙台」の充実を図ります
・“劇場法”の制定で重要度が増す「舞台芸術振興」のための諸事業を、せんだい演劇工房10-BOXとホール系施設の役割を改めて相互に明確化しながら再整備し、個々の事業の目的を明確にし、有効性を高めます
・仙台市と検討を進めている今後の舞台芸術振興のヴィジョンづくりを継続し、事業体系全体の構造を強化することから、「劇都仙台」事業の充実を図ります

2018(平成30)年度　事業の概要　[経費／単位：千円]

2019（令和元）年度に開催する第７回仙台国際音楽コンクールの本格的な準備を進めながら、秋のイベントとして定着した仙台クラシックフェスティバルなど、地域の音楽文化振興に寄与する事業を継続して実施しました。また、演劇やダンスなどの舞台芸術振興にかかるさまざまな事業について再構築を進め、新たな演劇祭の本格開催に向けたプレイベントを開催しました。

（１）音楽の振興と創造・発信型事業の推進

ア　仙台国際音楽コンクール運営事業[49,565]（市負担金／No.51-57）
イ　仙台クラシックフェスティバル[82,234]（市負担金・協賛金・入場料・自主財源等／No.3）
ウ　仙台ジュニアオーケストラ運営事業[23,256]（市負担金・受講料・入場料等／No.58）＊その３にも該当
エ　もりのみやこのふれあいコンサート[3,764]（市補助金／No.6）
オ　市制施行記念コンサート[4,173]（市委託料／No.61）
カ　地下鉄駅コンサート[1,168]（市負担金／No.40）

（２）舞台芸術の振興と創造・発信型事業の推進

ア　せんだい演劇工房10-BOX 現代演劇鑑賞事業[5,767]（市補助金・自主財源・入場料等／No.31）
イ　市民能楽講座[3,784]（市負担金／No.29）
ウ　能-BOX 施設活性化事業[559]（市補助金／No.34）

（３）劇場・音楽堂の活性化

ア　文化庁劇場・音楽堂等機能強化推進事業[75,766]（市負担金・文化庁助成金・自主財源・入場料／No.10）

主な楽都仙台事業

・仙台国際音楽コンクール運営事業（通年）　No.51-57
開催前年度として、出場者応募受付と動画データ等による非公開の予備審査を実施し、19の国と地域から84名（ピアノ部門43名、ヴァイオリン部門41名）の出場者を決定した。あわせて地域の音楽文化振興事業を実施した。

・仙台クラシックフェスティバル2018　9/28(金)～9/30(日) No.3
13回目を迎えた今回は、コンクール入賞者と仙台ゆかりの出演者の共演など、当財団ならではの企画を盛り込むとともに、せんくらファンからの要望をもとに特別に出演を依頼する公演を設けるなど、仙台で開催する音楽祭ならではの事業を展開した。
（入場者数：のべ38,600人）

主な劇都仙台事業

・せんだい卸町アートマルシェ2018　10/11(木)～10/14(日) No.31
市民協働による卸町での舞台芸術フェスティバルを前年に引き続き開催した。在仙プロデューサーや制作者等、担い手の育成も目指した。（入場者数：のべ1,193人）

・「劇都・仙台演劇祭（仮）」プレイベント　3/13(水)～3/17(日) No.31
日頃舞台芸術などに触れる機会が得にくい市民や会場に足を運べない高齢者などにも参加・鑑賞がしやすい、開かれた演劇祭を目指すためのプレイベントを施行した。
（入場者数：のべ489人）

＜方針その５＞ 地域文化資源の活用

多様な分野や担い手との連携と交流を進め、地域や文化資源の新たな魅力発掘に努めるとともに、文化の力を地域の活性化や課題の解決に活かします。

① 自然や歴史、伝統など、地域に息づき、育まれてきた文化の土壌を発展させ、その魅力を高める活動を支援します
② さまざまな文化活動を介して他者への理解を促進し、多様な価値観と生き方を認め合う地域社会をめざします
③ 地域の課題や魅力の発見・発掘に努め、多様な担い手と連携して新たな地域文化を育む取り組みを支援します

2018-2020年の方向性

地域共生社会に対応した文化活動のあり方を模索し、地域や社会課題に対応した文化事業を実践していきます。

・施設来場者、文化芸術団体、施設近隣の方々など、さまざまな立場の方々と文化施設や文化事業のあり方について対話を行い、地域における幅広いニーズや意見を把握します。
・それらの知見をもとに、自然・環境、子育て、障害のある方の情報アクセス、震災の記憶・記録を残し伝え学ぶ環境などに対応した事業を模索し、各文化施設の特徴や資源を活かして実施していきます。
・特に、地域に甚大な被害をもたらした東日本大震災については、2021年３月には１０年目を迎えることから、震災から１１年目以降の次世代に向けて、文化活動を通した震災の経験や記憶の継承について、持続可能なあり方を模索していきます。
・仙台市文化プログラムやせんだい・アート・ノード・プロジェクトでは、社会の課題を見据え、地域の資源や人材を生かした文化事業を行います。

2018(平成30)年度　事業の概要　[経費／単位：千円]

せんだい3.11メモリアル交流館の運営３年度目として様々な企画展を開催し、施設の魅力を多方面へ発信しました。継続中の「アート・ノード・プロジェクト」、東京オリンピック・パラリンピック開催に向けた「仙台市文化プログラム」では、社会課題を意識しながら、地域の文化資源を活かした事業を行いました。

（１）地域共生社会を見据えた事業

ア　利用者や地域との運営懇談会[29]（市指定管理料／No.98,108）
イ　森を育てる2018[78]（自主財源／No.18）

（２）震災・復興に文化を通して向き合う事業

ア　せんだい3.11メモリアル交流館運営・各種事業[51,338]（市受託料／No.60）

（３）地域・社会の課題を見据えた文化事業　＊その３にも該当

ア　「仙台市文化プログラム」公募・共催事業[5,588]（市負担金／No.41）

（４）新たな地域文化創造にむけた事業　＊その２にも該当

ア　せんだい・アート・ノード・プロジェクト[34,117]（市補助金／No.72）

・せんだい3.11メモリアル交流館運営（通年）　No.60
年間３回の企画展のほか震災メモリアルや地域の魅力発信にかかる講座・ワークショップや地域連携事業協力などを行った。また、来館者の記念となるようなオリジナルグッズの開発にも着手した。（年間来場者数：59,022人）

・仙台市文化プログラム事業（通年）　No.41
東京オリンピック・パラリンピックの開催を契機として、「地域資源発掘（２年目）」「文化芸術による震災復興」「文化芸術による障害者支援」の３テーマにより公募し採択された３事業を、企画提案者と仙台市、事業団の３者協働で実施した。（総参加者：3,534名）

・せんだい・アート・ノード・プロジェクト（通年）　No.72
実施３年目となる当年度は、沿岸部岡田地区貞山堀に現代美術家設計の橋を架ける、貞山運河に沿って長期展開されるプロジェクト「川俣正/仙台インプログレス」「藤浩志/ワケあり雑がみ部」「東北リサーチとアートセンター（TRAC）」の運営等の事業を展開した。
（総参加者：15,472人）

３． 経営の強化に向けた取り組み

「市民文化事業団の事業運営に関する基本指針」より

●人材の確保・育成

（１）職員の専門性と能力の開発

ア 他都市や他機関を含む研修機会の充実
イ 専門性の高い人材の確保
ウ 中長期的な育成の見地に立った異動・交流のしくみの検討

（２）市民協働の推進

ア 市民協働のさまざまな場面での推進
イ ボランティアやサポーターの活動機会の拡大・ネットワーク構築

2018-2020年の方向性

・仙台市及び他機関の研修機会を積極的に活用します
・独自に企画する研修の分野や機会を拡大し、内容の充実を図ります
・職員個々の適性をもとに、キャリアアップやＯＪＴの観点を重視しながら、育成面でも有効な人事を行い、組織力の維持向上を図ります
・今後増加する職員の定年退職に備え、中長期の再雇用計画について検討を進めます
・各事業の実施を通して、外部のさまざまな方々と協働することから、仙台の文化芸術振興に欠かせない担い手の育成を進めます

2018（平成30）年度の取り組み

（１）独自企画研修の強化・回数増

（２）固有職員再雇用計画の作成

（３）助成事業等、市民活動支援事業の充実に向けた調査・検討

（４）継続中の市民協働型事業の再編に向けた検討、新たな協働事業の試行

「市民文化事業団の事業運営に関する基本指針」より

●経営基盤の強化

（1）運営基盤の強化

ア 補助金助成金の活用／多様な資金調達手段の開発
イ 新たな顧客やリピーターの開発／友の会制度の見直し

（2）組織の強化

ア 外部団体や企業との連携の促進
イ 他都市や他機関との連携の促進
ウ 組織内での情報共有の徹底
エ チャレンジする組織風土への変革

（3）安心・安全の確保

ア リスク予防やＢＣＰ策定等による安心安全体制の構築
イ 運営施設の案内やサイン表示のわかりやすさの向上
ウ 運営施設の老朽度合等の把握／こまめな修繕

（4）情報発信の強化

ア ホームページの見直し
イ ＳＮＳ等の活用

2018-2020年の方向性

・基本財産及び退職給付引当資産の運用先の拡大を視野に、規程の見直しを含めて検討を進めます
・寄付取得の方法やその広報手法の調査・開発を行います
・外部資金獲得のための情報収集・共有を、組織内で徹底します
・「市民文化事業団友の会」制度の見直しを行い、文化鑑賞会としてのサービス・アップを図ります
・ホームページの改善にむけ、調査・検討を継続し、システム改修を行います
・施設の指定管理を維持していくため、総合的な経営基盤の強化を施設の運営業務においても生かしていくとともに、次期申請に向けた新しい取り組みを開発します

2018（平成30）年度の取り組み

（1）全国の文化振興財団の寄付取得実績や広報の状況の調査

（2）文化庁・地域創造等による補助金制度の調査強化・活用拡大

（3）ホームページ改善のためのシステム改修計画の作成

（4）仙台市泉文化創造センターの次期指定管理申請（2019年度）の準備

公益財団法人仙台市市民文化事業団　平成30年度　事業報告書

1. 定款第4条第1号、第2号、及び第3号の事業（市民の文化芸術及び郷土の歴史に関する活動等の支援及び育成、普及啓発及び情報発信、交流及び協働の促進

（単位；千円）

（1）芸術文化振興事業

1）経常事業

番号	事業名	期日	会場	支出	収入	収入内訳・備考
	事業内容					入場者数等・備考
①市民文化事業への支援事業						
1	**支援・助成・協力事業**	2回募集	―	19,708	19,708	市補助金 19,708
	市内で活動する団体・個人が行う芸術文化事業に対し、支援・助成・協力事業として公募により下記のとおり実施した。 ・支援事業：年4回発行の文化情報誌「季刊まちりょく」に市民企画事業の告知を掲載し、広報サポートを行った。 ・助成事業：6月と12月に募集し、募集ごとの助成審査会により資金援助を決定し交付した。 ・協力事業：特に公益性の高い事業や良質な文化事業についての事業団友の会会員への割引チケット斡旋協力の他、資料や機材の貸出、人材の紹介や派遣、企画協力、事務局への参画、会場協力などを行った。					支援：183件 助成：117件 協力：91件
2	**名義後援**	通年	―	0	0	
	団体・個人が行う文化芸術事業に対し、名義後援を行った。					145件
②公演事業						
3	**仙台クラシックフェスティバル2018**	9/28～30	日立システムズホール仙台他	82,234	79,432	入場料 44,510 協賛金他 11,622 市負担金 23,300
	2006年（平成18年）に事業団創立20周年記念事業として立ち上げ、13回目を迎えた今回は、コンクール入賞者と仙台ゆかりの出演者の共演など、仙台市市民文化事業団ならではの企画を盛り込むとともに、せんくらファンの要望に沿って特別に出演をお願いした公演を設けるなど、仙台で開催する音楽祭ならではの事業を展開した。 ・ホール公演は、45分～60分の公演時間、チケットは1,000円～2,000円という手の届きやすい料金で、本格的なクラシック音楽を気軽に楽しんでもらう構成とした。 ・地下鉄沿線の日立システムズホール仙台、仙台銀行ホール イズミティ21、エル・パーク仙台、太白区文化センターの4施設を会場として、3日間で87の公演を設け、様々なジャンルのクラシックコンサートを複数楽しめる構成とした。 ・地下鉄駅コンサート、街なかコンサートを設けることにより、仙台市内にクラシック音楽があふれ、音楽の持つ力により、たくさんの方々に元気と希望、喜びを届けることのできるフェスティバルとした。					入場者： のべ38,600人
4	**宝塚歌劇　雪組　全国ツアー仙台公演**	4/7～8	仙台銀行ホール イズミティ21	26,242	42,023	入場料 41,238 広告料 350 その他 435
	仙台市民はもとより広域からの要望が高い事業として、宝塚歌劇団の仙台公演を実施した。2日間・4ステージで第1部ミュージカル「誠の群像−新選組流亡記−」、第2部レヴュー「SUPER VOYAGER!」を上演した。					入場者：5,732人
5	**弧の会日本舞踊公演＆ワークショップ**	3/2～3	日立システムズホール仙台	4,702	1,267	入場料 1,267
	流派を超えて結集した男性日本舞踊家12名の「日本舞踊家集団・弧の会」による舞踊公演を実施した。また公演前日に小学生の親子を対象とした日本舞踊ワークショップを開催し、翌日参加した子どもたちが公演前座にて弧の会メンバーと一緒に踊りを披露した。同公演前座では、日本舞踊協会仙台支部の協力により、仙台で踊りに取りくむ子どもたちの舞踊披露も行った。					入場者：348人 ワークショップ参加者：6人
6	**もりのみやこのふれあいコンサート**	12/4	仙台銀行ホール イズミティ21	3,764	3,764	市補助金 3,764
	障害のある方とそのご家族・同行者の方などにオーケストラの演奏を楽しんでいただくとともに、芸術文化活動を振興することを目的に開催しているコンサート。仙台フィルハーモニー管弦楽団による親しみやすい演奏と構成で、客席とステージが一体となる盛り上がりをみせた。また、平成26年度から会場を仙台銀行ホール イズミティ21大ホールとし、より多くの車椅子の方の受入れを可能としている。事前申込制・無料。仙台市及び仙台フィルと共催。					入場者：1,096人
7	**新春いずみ寄席**	1/6	仙台銀行ホール イズミティ21	3,070	2,200	入場料 2,200
	新春恒例の看板事業として春風亭小朝師匠を招いて、東京の定席寄席と同規模の小ホールならではの臨場感のある落語寄席を実施した。13時～、16時～の1日2回公演を行った。					入場者：のべ540人
8	**ロシア国立ワガノワ・バレエ・アカデミー 「くるみ割り人形」公演＆レッスン（共催事業）**	2/2	仙台銀行ホール イズミティ21	1,272	1,272	その他 1,272
	ロシア最古のバレエ学校「ワガノワ・バレエ・アカデミー」の公演「くるみ割り人形」を開催した。またバレエを学ぶ子どもたちを対象に、7月に同アカデミーの教師による特別レッスンを行った。株式会社アルス東京と共催。					入場者：1,385人 レッスン参加者：49人

9	**共催事業**	通年	日立システムズホール仙台他	1,002	0	
	放送局等が行う公益性の高い文化事業を共催した。 ・仙台青葉能(5/19 河北新報社 負担金500) ・仙台オペラ協会「修道女アンジェリカ/カヴァレリア・ルスティカーナ」(9/1・2 仙台オペラ協会 負担金1,600) ・文楽公演(10/17 東北放送 負担金500) ・小山実稚恵「音の旅」アンコール公演(6/17 仙台・杜の響きコンサート 負担金なし) ・TAP DANCE ART PROJECT in Sendai～Tap the FUTURE～ワークショップ(通年 同実行委員会 負担金なし) ・ヘンリー五世(3/1-3 仙台放送 負担金なし) 他					14件

③ホール運営活性化事業

それぞれのホールが、その機能を十分に発揮する各種公演等を行うこと、そしてより地域に開かれた施設となるよう、さらには新たな利用の可能性を探るために各種事業を実施した。

10	**劇場・音楽堂等機能強化推進事業 (青年文化センター文化庁文化芸術振興費補助事業)**	通年	日立システムズホール仙台	75,766	70,818	**入場料等 9,510 文化庁助成金 13,071 その他助成金 2,700 市負担金 45,537**
	市の文化芸術振興の中核施設として、育成・普及・創造の社会的役割を果たす日立システムズホール仙台からの発信事業。国からの補助金(文化芸術振興費補助金)を財源とした助成を受け、仙台市、(公財)仙台フィルハーモニー管弦楽団などと共催。 ＜人材養成＞ **①ミュージカルプロジェクト**(**8月～3月　練習室、交流ホール等**):市民及び地元のアーティストが協力して交流・協働・創造できる場を提供し、新たな文化の担い手(作り手・支え手)の育成を図ることから市民文化活動に関わる人材のすそ野をより一層広げることを目的として、2019年の上演に向けた新作ミュージカルの制作を行った。当年度はオーディションを行い、月1～2回のペースでステップ練習、基本発声、セリフ練習などミュージカルの基礎となるレッスンを継続実施した。 総合監修:茅根利安(ココロノキンセンアワー)、脚本・演出:渡部三妙子(おむらいすファクトリー)、ダンス指導・振付:朝日雅宏(MJ・イリナミュージカル)、音楽:只野展也、歌唱指導:佐藤一成(福島オペラ協会)、レッスン全21回。 **②ダンスプロジェクト**(**10月～3月　和室、練習室等**):子どもから大人までの幅広い年齢層を対象に、ダンスを通じて豊かで柔軟な発想を育み、想像力豊かなコミュニケーション能力を高める3プログラムを実施した。 【おやこで踊ろう！ファミリーダンス&みんなで踊ろう！多世代ダンス】 10月～3月の毎月日曜日1回、全6回。 未就学児の親子クラス、年齢不問の多世代クラスのコミュニティダンスプログラム。 講師:マニシア、アシスタント講師:野中香織 【仙台をカラダでなぞる「土地」「記憶」「身体」】 10月～1月の毎月土日2日間1回、全4回。 表現活動の創造過程においてポイントとなる「視点」「想像」「変換」を学ぶため、”仙台の土地や歴史”などを知り、自分のカラダで表現してみるトレーニングを継続して実施するプログラム。 講師:10月回 伊藤み弥、千葉里佳、11月回 木村浩二、渋谷裕子、12月回 八重樫仙台タンス金具工房、山田うん、1月回 伊藤み弥、千葉里佳、渋谷裕子 【ダンスの観かた講座「ダンスと言葉を通じて、どの世界とつながるか。」】 11/22・2/14、全2回。 ダンス映像を観て、それぞれが感じたことを、様々な表現で言葉に変換するトレーニングプログラム。 講師:飯名尚人 ＜普及啓発＞ **①青少年のためのオーケストラ鑑賞会**(**7月・10月　コンサートホール**):市内小・中学校129校を音楽専用ホールに招いて開催する本格的なオーケストラの演奏会。管弦楽は仙台フィルハーモニー管弦楽団。全14回。 【小学生プログラム】指揮:鈴木織衛　司会:御供和江　管弦楽:仙台フィルハーモニー管弦楽団 【中学生プログラム】指揮:鈴木織衛　司会・お話し:御供和江　管弦楽:仙台フィルハーモニー管弦楽団 ＜公演＞ **①《名曲のちから》「オーケストラ・スタンダード」**(**1月・2月　コンサートホール**):平成23年度からの継続企画。クラシック音楽の鑑賞中級者に向け、オーケストラ作品の名曲をリーズナブルな入場料で提供するシリーズコンサートを実施した。 【Vol.22】1/30　指揮:太田弦　ヴァイオリン:郷古廉　管弦楽:仙台フィルハーモニー管弦楽団 【Vol.23】2/20　指揮:山下一史　ピアノ:津田裕也　管弦楽:仙台フィルハーモニー管弦楽団 **②おとなとこどものためのクラシック入門「仙台フィルのクリスマスコンサート」**(**12/25　コンサートホール**):親子や三世代で楽しめる内容とするため、クリスマスに関連した作品を中心になじみのあるプログラムで構成し、平日昼の時間帯にオーケストラ・コンサートを実施した。 指揮:角田鋼亮　管弦楽:仙台フィルハーモニー管弦楽団 **③熊谷和徳タップダンス公演**(**7/22、12/15・16　シアターホール、市街地カフェ**):仙台出身のタップダンサー・熊谷和徳との協働企画。今回は世界屈指のジャズベーシストをスペシャルゲストに迎え、タップダンスと同じアメリカ南部から派生したジャズにポピュラー音楽も織り交ぜた公演を実施し、熊谷和徳の母校である仙台市内中学校吹奏楽部とも共演した。また公演にあわせてタップダンスワークショップを行った。公演のPRを兼ねて市街地カフェ店内で若者向けカジュアルな無料イベントを開催した。 【公演 「TAP INTO THE LIGHT 2018 － To Be Myself, To Be Yourself.」】12/15　出演　タップダンス:熊谷和徳　ベース:Alex Blake(アレックス・ブレイク)　ピアノ:林正樹　仙台市立五橋中学校吹奏楽部(1～2年生45名) 【スペシャルワークショップ】 12/16 OPENクラス、初級～上級クラス　講師:熊谷和徳、Alex Blake 【プレ企画　熊谷和徳タップダンス&トーク　ライブ「表現者たち」】 7/22　BLUE LEAF CAFÉ　出演　タップダンス:熊谷和徳、ドラム:mabanua **④小池博史ブリッジプロジェクト公演「新・伝統舞踊劇 幻祭前夜2018～マハーバーラタより」**(**公演9/16・ワークショップ7/13-15　シアターホール、練習室**):流山市等5都市の劇場が連携し、インドの叙事詩「マハーバーラタ」を題材に2015年に初演された演目をもとに、沖縄を含む日本人アーティストを主に起用し、新演出を加え実施した。また創作ワークショップを行い成果発表会を開催した。作・演出・振付・構成:小池博史　出演者:小谷野哲郎、張春祥、川満香多、谷口界、土屋悠太郎、吉澤慎吾、YASUCHIKA、福島梓、ムーンムーン・シン　演奏:下町兄弟、大城貴幸 公演アフタートーク: 小池博史(演出)、野村政之(演劇制作者・ドラマトゥルク) ワークショップ講師: 小池博史(演出)、下町兄弟 **⑤仙台市青年文化センター&仙台文学館企画事業　こまつ座公演「父と暮せば」**(**7/14　シアターホール**):仙台文学館初代館長であり、日本を代表する劇作家・井上ひさしの作品を、井上戯曲の継承者であるこまつ座により公演を実施した。作:井上ひさし　演出:鵜山仁　出演者:山崎一、伊勢佳世 【プレ企画　講演会「ヒロシマとの出会い、井上先生の思い出」】 (5/26　仙台文学館)　講師:斉藤とも子 ＜その他＞ **①事業評価**(**通年**):PDCAサイクルと外部評価体制を確立し、事業の有効化をはかるため、事業の評価委員会を設置・運営した。					人材養成事業 ①参加者:58人 ②参加者:72人 (3プログラム) 普及啓発事業 ①鑑賞者:10,774人 (全14回) 公演事業 ①1/30入場者:770人 2/20入場者:760人 ②入場者:560人 ③公演入場者:470人 ﾌﾟﾚ企画来場者:200人 ﾜｰｸｼｮｯﾌﾟ参加者:46人 ④入場者:346人 ﾜｰｸｼｮｯﾌﾟ参加者:21人 ⑤入場者:387人 ﾌﾟﾚ企画来場者:61人

11	**青年文化センター活性化事業等**	通年	日立システムズホール仙台	4,341	265	受講料 29 コピー料 236
	地域資源等を活用しながら、文化創造・交流拠点としての施設機能の充実と利用促進を図り、より市民に親しまれる施設に向けた事業を行った。 **①パフォーマンス広場活用プロジェクト**（7/31・8/1）：当館の特徴的施設である自由空間を利用しているアーティストにスポットをあてたステージを“ボレロ”共催事業にあわせ開催し、同広場の創造拠点機能を広く発信した。 **②地域連携事業**（通年）：旭ヶ丘地区のコミュニティー事業である「旭ヶ丘わんぱく森²がっこ」をはじめ、旭ヶ丘市民センター、近隣町内会など諸機関との連携協働を継続した。当年度は施設の美化推進事業で育てた花の活用事業にも取り組んだ。 **③諸室・フリースペース活用事業**（通年）：茶室等の利用モデル事業として、茶道ワークショップ、お抹茶体験を“ボレロ”共催事業のコンテンツとして実施したほか、エントランスホールの展示事業を実施した。 **④インド アッサム民俗舞踊団公演**（9/21）：インド政府が派遣する優れた舞踊を紹介し、国際文化交流及び相互理解の推進を図った。 **⑤伝統文化・歴史遺産活用事業**（2/10・11）：伝統文化・歴史的資源を活用した総合・参加型事業「雅コレクション～王朝文化への誘い」を開催し、歴史や文化に親しむ機会を提供した。 **⑥こどもの夢ひろば“ボレロ”共催事業**（7/31・8/1）：仙台市出身のピアニスト 小山実稚恵氏プロデュースによる子ども向けコンサートを中心とした体験型総合イベントを共催した。 **⑦共通経費・次年度調査事業**（通年）：次年度事業に向けた調査を実施した。 **⑧コピーサービス事業**（通年）：施設利用者用のサービスを継続して実施した。					①608人 ②78人 ③1,232人 ④149人 ⑤のべ3,587人 ⑥3,095人 ⑧は収益事業
12	**泉文化創造センター 活性化事業**	通年	仙台銀行ホール イズミティ21	648	13	販売手数料 13
	ホール施設等の利用促進に向けた活性化事業を行った。 **①市民協働によるロビーイベント**（年3回）：ホールの保守点検日に使用せずに空いているホールロビーを活用し、地域を拠点に活動する団体との協働で事業を実施した。 ・2本のチェロとピアノによる華麗なる調べ（チェロ：佐々木杜洋、中村隆人、ピアノ：菅原望）（11/14） ・花を咲かせよう！ソプラノ/フルート/ピアノによる名曲コンサート（ソプラノ：鈴木真衣、フルート：千葉展子、ピアノ：高見秀太郎）（11/15） ・たのしいおやとこのファミリーコンサート「グリーンマントのピーマンマン　かぜひきさん（聖和学園短期大学 保育内容B・ハンドベルクワイア）（2/20） **②ホール見学会**（1日2回公演）：普段目にする機会の少ない大ホールのバックステージを中心に、音響・照明等の機材の操作体験を行う参加型の見学会「小学生のための舞台ウラ探検ツアー　舞台の秘密を100％探検してみよう」を実施した。小学生を対象として、親子で楽しみながら舞台に興味を持ってもらう内容とした。指定管理者グループ構成団体の㈱東北共立の舞台職員が企画段階から参画し、協働で運営。地元で活動する子どもミュージカル団体が模擬イベントを実施した。 **③ピアノ弾き込みボランティア運営**（6/19・20、11/29・30、3/11・12〈年6回〉）：大ホールのスタインウェイ社製コンサートグランドピアノを常時良好な状態に保つため、一定の演奏技術を持つ市民ボランティアがピアノ弾き込みを実施した。 **④市民ギャラリー・エントランスロビーでの展示** ・市民ギャラリー展示事業「秋　書道セレクション21」（9/20-30　市民ギャラリー）書道教室「瀧墨書会」教育部の小中高生が中心となって書いた毛筆21作品を展示した。 ・東北文化生活大学によるガラスアート展（11/3-11　エントランスロビー）東北生活文化大学　生活美術学科によるエントランスロビーのガラス面を活用したアート作品を展示した。 **⑤泉中央地区プレイガイド事業**（通年）：利用者へのサービス向上と来場者への利便を図ると共に、文化イベントの普及促進に寄与するため、当館ホールを会場に実施されるイベントの入場券を受託販売した。また、仙台市市民文化事業団主催の入場券も併せて取り扱い、仙台国際音楽コンクールや仙台クラシックフェスティバルについては専用端末を用いて一般販売ならびに友の会先行販売に対応した。また、入場無料の整理券配布等については当館以外を会場とするイベントを含めて積極的に取り扱いを行った。					①11/14：239人 11/15：250人 2/20：302人 ②のべ44人 ③6人 ④200人 ⑤は収益事業

④ミュージアム活性化事業

ミュージアムの新たな魅力や個性づくりに向けた各種体験型事業やグッズ製作等を行い、来館者の増加や満足度の向上を図った。

13	**猿舞座のさるまわし**	6/10	榴岡公園 歴史民俗資料館	25	0	
	榴岡公園を会場として、山口県岩国市に拠点を置き全国を旅しながら猿まわし興行を行う猿舞座の11回目の公演。緑の下、人も猿もリラックスした雰囲気で伝統芸に親しむことができた。					参加者：237人
14	**れきみん秋祭り**	10/27、11/3	榴岡公園 歴史民俗資料館	2,955	1,179	刊行物販売 1 助成金 1,178
	歴史民俗資料館と10－BOXが共同で企画運営する「れきみん秋祭り」の13回目。「お神楽」「田植踊」「鹿踊」「剣舞」などの伝統芸能の競演と、仙台で守り継がれてきた伝統工芸の職人さんの手業の披露、併せてジャグリングやコマ回しなど、大人だけでなく各世代が同時に楽しめるイベントとして開催した。					参加者：2,410人
15	**体験教室「親子でつくろう古代米」**	5月～11月	富沢遺跡保存館他	471	55	参加料 19 古代米販売 36
	富沢遺跡保存館に隣接する水田で古代米の栽培を行った。親子での協働作業を通じて、古代からの生業を体感するとともに、地域の歴史的な絆や親子の絆の深さを知る機会とし、また近隣の小学校や地域と連携して事業を展開し、富沢遺跡保存館が地域活性化の拠点となることを目指して実施した。当年度は、田植えから収穫まで計5回の活動日を設け、歴史民俗資料館との連携も行いながら事業を行った。					参加者：のべ220人
16	**ミュージアムフォトコンテスト 「氷河期の森・縄文の森の風景2018」**	5月～3月	富沢遺跡保存館・ 縄文の森広場	337	0	
	都市化が進む太白区長町～山田地区にとって、富沢遺跡保存館・縄文の森広場の野外展示は貴重な緑地として地域住民に親しまれている。より多くの市民に両館の野外展示について楽しみながら知っていただくことを目的として、その魅力を1枚の写真で表現してもらい、コンテストを行った。					応募作品：26点

17	**ミュージアム・シアター「狩人登場」**	5月～3月	富沢遺跡保存館他	1,148	0	
	市内を中心に演劇等の表現活動をする「劇団　短距離男道ミサイル」の協力を得て、旧石器時代の狩人が登場するイベントを行った。ミュージアム・シアターの手法を導入することによって、考古学の知識や知的興奮に加え、当館での非日常的な空間を生かした特別な体験を提供することを目指した。					実施回数:40回
18	**森を育てる2018**	6月～11月	富沢遺跡保存館	78	0	
	富沢遺跡保存館の野外展示「氷河期の森」は、環境復元（展示）と環境回復（保全）を核として、普及啓発事業にも活用してきた。これに、ESD（持続可能な開発のための教育）の視点を加え、環境活動を将来にわたってどう行っていくか、参加者が主体的・計画的に考える場となるように行った。野外展示である復元林の生育を促すイベント等を通して、多様性、相互性、有限性、公平性、連帯性、責任性などを学び、持続可能な地域づくりを担う人材育成も目指した。平成30年度は、指定管理業務「たのしい地底の森教室」の一部としても実施し、当館の独自性を活かした事業へと展開を図った。					参加者:のべ109人
19	**冬キラ☆今日の主役は氷河期の森**	12月	富沢遺跡保存館	338	0	
	地底の森ミュージアム野外展示「氷河期の森」の利活用方法を開発し、推進するための事業。地域のイベントとしての定着と、地域の方々が参加しやすいかたちで「氷河期の森」の価値の共有や保全への共感を得ることを目的として行った。平成30年度は、指定管理業務「たのしい地底の森教室」に結び付けて実施した。参加者から好評を頂いた閉館時間の施設・野外展示利用など、指定管理業務では実施が困難な内容は自主財源事業として実施した。					参加者:のべ650人
20	**施設広報開発事業 「市民協同動画制作と公開」**	7月～12月	富沢遺跡保存館	354	0	
	動画の撮影・編集にかかわるワークショップを開催した。写真や動画を活用できるソーシャルネットワークサービス（SNS）の増加により、市民が情報の受信者であると同時に発信者となっている。市民目線の動画は、動画閲覧者にとって具体的な施設利用の提案となり来館を促すことや、館とかかわりを持つことで応援・援助したいといったエモーショナル・エクイティを高められることが期待できる。参加者に施設の魅力を見つけ出して動画作品を制作してもらい、その作品6本と狩人登場に結び付けた動画4本を館のホームページなどで公開した。					参加者:10人
21	**縄文祭復元事業 「縄文まつり復元と創造プロジェクト」**	通年	縄文の森広場	2,490	100	助成金 100
	縄文人の暮らしの中で行われていたであろう、「まつり」の復元と創造を目指してこれまで調査研究活動を行ってきた。平成29年度には、市民と一緒に「草舟づくり体験」を行い、乗船体験した。また、調査研究活動の成果を公開するイベントとして、「縄文人の記憶の宴」を実施した。本イベントは、縄文時代をイメージした演奏・舞・食・火をテーマに、市内の劇団員や市民が縄文人に扮して巨大な火祭り・縄文の音楽・踊りを行ったものである。当年度も引き続き、「草舟づくり体験」・「縄文人の記憶の宴」のイベントを継続して行った。					参加者: 草舟づくり　のべ54人 記憶の宴 10/20　110人 3/24　213人
22	**学校・地域連携促進事業「縄文まるかじり」**	通年	縄文の森広場	754	0	
	平成28年度から「ドッキーをつくろう」と題し、山田上ノ台遺跡出土土器の特徴を知ってもらい、お菓子づくり考古学者下島綾美氏を招いて土器片そっくりのクッキー「ドッキー」づくりを通じて山田上ノ台遺跡および縄文文化について学ぶイベントを近隣の上野山児童館と連携して実施してきた。また、オリジナルメニューの開発として、平成29年度に3次元計測によるミニチュアの土器型を製作し、縄文土器チョコづくりを実施した。当年度も引き続き、楽しみながら縄文文化に触れられるイベントを実施した。 「ドキ土器チョコレート」 2/11　6組14人、3/10　6組14人、 「土器を食べちゃえ！土器片型クッキー”ドッキー”をつくろう」 2/23　11人					参加者:39人
23	**野外展示「縄文の森」の多目的活用「森でみつける『じょうもん』」**	通年	縄文の森広場 太白山自然観察の森 太白小学校	106	0	
	野外展示「縄文の森」の利活用の幅をひろげるために、近隣住民・小学校・地域の団体などと連携を図りながら、専門家の指導を受けて植生環境の充実を図る事業として、平成29年度10月には太白山自然観察の森と連携し、太白小学校1年生を対象として、生育するクリなどを採取し育てる事業を行った。当年度は、前年度に引き続き縄文時代に利用された植物を観察する事業を太白小学校1，2年生を対象に行った。					参加者: 10/2　27人 3/5　51人
24	**仙台文学館まつり**	8/18	仙台文学館	139	3	その他 3
	平成21年度に開催して大変好評であった「吉里吉里国まつり」を「文学館まつり」として継続して開催。文学館に一層親しんでもらう企画として、夏休みのこども文学館の時期に合わせ、子どもを視野に入れたステージやスタンプラリーを実施。秋以降の企画に繋げ、リピーターを増やす工夫をした。					入場者:985人
25	**ライブ文学館**	3/9	日立システムズホール仙台	1,537	1,562	入場料 1,562
	ホール、ギャラリーなどを会場に、朗読、音楽、映像、演劇などを交えて、文学作品をひとつのステージとして構成する催し。文学との出会いの場を広げ、「文学が息づく都市」仙台の新たなブランドを醸成した。 **「恩田陸『蜜蜂と遠雷』を聴く」:** 仙台ゆかりの作家・恩田陸の直木賞受賞作『蜜蜂と遠雷』をテーマにしたステージ。第一部はアナウンサー石垣のり子（FM仙台）による朗読と、仙台ゆかりの若きピアニスト・文京華と葛原寛によるピアノ演奏。第二部は関係者によるトークステージ。					入場者:542人

26	**ミュージアムシアター　展示室劇場**	2/24、3/24	仙台文学館常設展示室	316	0	
	仙台文学館の常設展示の柱である、土井晩翠と島崎藤村について、より積極的に紹介する試みとして、二人の生涯を短い演劇に仕立てて展示室内で上演。来館者が立体的に二人を感じ、興味関心を深める手助けとするとともに、この手法を通じて文学と演劇の新しい魅力や楽しみ方を提案した。事業団設立30周年事業の取り組みを継続し、文学館常設展示に対する市民の興味関心をさらに促した。					入場者: 2/24　95人 3/24　31人
27	**smtホスピタリティ向上事業**	通年	せんだいメディアテーク	659	0	
	①親子のための居場所づくり支援事業： 子育て世代の親子連れや児童・生徒の施設利用促進に向け、オープンスクエアでの「こどもスクエア」など、館内の様々な空間を魅力的に演出・活用する「場」づくりを行った。 **②メディア活用による2階映像音響ライブラリー活性化事業：** 2階映像音響ライブラリーと7階スタジオシアターの連動を図る活用モデル事業。映画文化の活性化、利用者間の交流を通じ、「our library & theatre（我らがライブラリー&シアター）」という意識をもつ利用者を育む。通年開催。					
28	**ミュージアムグッズ開発・販売事業**	通年	各ミュージアム他	655	1,149	刊行物販売 1,092 その他 57
	ミュージアム来館者への記念品として、かつ普及の手法として、ブランドの向上や収入確保も目指し、施設の特性や資源を生かしたオリジナルグッズの開発を行った。 **①歴史民俗資料館グッズ**：昭和22年復興新仙台地図、昭和27年仙台地図、昭和4年および昭和8年仙台商工地図・大正15年仙台地図の継続販売と、新規復刻地図の制作販売を行った。（支出279、収入605） **②富沢遺跡保存館グッズ**：氷河期の森で採取した素材を活用したグッズ（氷河期の森の仲間たち・氷河期の森標本シリーズ等）、編布グッズ（コースター・しおり・ミサンガ・ストラップ）を販売した。（支出64、収入49） **③縄文の森広場グッズ**：縄文の森広場ボランティアスタッフによるオリジナルグッズの制作と開発を行った。（支出78、収入51） **④仙台文学館グッズ**：前年度までに制作し来館の記念などとして人気の高いしおり・クリアフィルなどを継続販売した他、在仙のクリエイター、アーティストに、敷地内の自然をイメージしたグッズ「フォレストシリーズ」の制作を依頼し来館者のニーズに応えた。（支出188、収入236） **⑤メディアテークグッズ**：ミュージアムショップ等と共同開発してきたオリジナルグッズの継続販売を行った。（支出46、収入208）					収益事業

⑤劇都仙台2018事業

都市文化を支える芸術としての演劇の総合性と公益性を背景に、仙台市と共催のもと、各種振興事業を以下①～⑤の体系に基づき実施した。
①良質な公演の機会の拡大　②表現者の発掘・育成　③活動を始める市民への窓口やネットワークの支援　④教育や福祉など他ジャンルとの連携　⑤情報交流や協働

29	**第37回市民能楽講座**	7/7	日立システムズホール仙台	3,784	3,784	入場料 1,602 市負担金 2,182
	能の公演を通して市民に伝統芸能の魅力を伝える企画として継続実施している事業。「能楽」をわかりやすく、気軽に楽しみながら学べる事業として、仙台市と仙台市能楽振興協会との共催により実施。当年度は、観世流「田村」能公演を実施。					入場者：476人
30	**舞台スタッフ・ラボ2018**	1/27～2/17	演劇工房10-BOX・宮城野区文化センター他	1,284	1,284	受講料 80 市補助金 804 助成金他 400
	舞台監督・音響・照明・大道具美術部門に分かれ、座学やスタッフワークの基本を学ぶ「基礎コース」から演劇公演のスタッフワークを体験する「発展コース」まで実施。これまでの参加者の声も反映し、だれもが舞台芸術や表現の楽しさと奥深さに触れる機会を体験でき、更なる人材育成と市民活動・舞台芸術活動の活性化を目指した。宮城野区文化センターとの共催により開催。発展コースの最終日には舞台スタッフ・ラボ×みやぶん演劇学校との合同公演「銀河鉄道の夜」を実施した。また、5部門以外のスタッフワークを単日で市民に伝え、スタッフワークの魅力を広く伝える「オープン講座」も開催した。					参加者：のべ246人 オープン講座参加者：57人 合同公演入場者：188人
31	**10-BOX鑑賞型プログラム**	通年	演劇工房10-BOX他	5,767	4,579	入場料 101 市補助金 4,478
	①戯曲賞大賞作品リーディング公演（3/10）：せんだい短編戯曲賞の大賞作品のリーディング公演を大賞授賞式に併せて実施。大賞作品の魅力を上演を通して伝えることや、演出や出演は仙台の演出家や俳優に依頼することで、受賞作家と仙台の演劇人との交流も目指した。 上演作品：「わたしのヒーロー」作：ピンク地底人3号・演出：文月奈緒子。 **②「劇都・仙台演劇祭（仮）」プレイベント**（3/13-17）：日頃舞台芸術などに触れる機会が得にくい市民や会場に足を運べない高齢者などにも参加・鑑賞がしやすい開かれた演劇祭を目指すためのプレイベントを試行した。 （1）「オープンステージ」：3/13-15 出前可能な演目の見本市。12プログラムを上演。 （2）メインステージ「ナイゲン」：3/16・17 市民参加による創作公演。脚本：冨坂友（アガリスクエンターテイメント）演出：丹野久美子（I.Q150）　演出補：戸石みつる（SENDAI座☆プロジェクト）　出演者：高校生14名 （3）トークショー「これからの演劇祭を語るフリートーク」：3/17 演劇祭の将来像を語るトーク **③受け入れ公演：**県外の優れた作品を共催事業の形式で実施し、市民に優れた作品の鑑賞機会を提供し、観客層の拡大につなげた。さらに、滞在型・創作型の公演も実施し、県内外の演劇関係者との交流の場を創出した。在仙劇団の活動の幅を広げることも目指した。平成30年度はiaku、烏丸ストロークロック、まつもと市民芸術館プロデュース、山田うんの4団体と実施した。 **④せんだい卸町アートマルシェ2018**（10/11-10/14）：県内外の先駆的な作品・評価の高い若手劇団の演目を一堂に集め、数日間の演劇祭を開催。在仙のプロデューサーや制作者の育成も目指した。					①入場者：88人 ②入場者：のべ489人 ③入場者：のべ412人 ④入場者：のべ1,193人

32	**まなぶ☆からだ-身体表現ワークショップ**	通年	演劇工房10-BOX他	1,072	1,072	受講料 147 市補助金 775 助成金 150
	身体表現に着目し、数日間にわたるワークショップを通して、舞台芸術を幅広く体験し多角的に学ぶ講座。講師は舞台（演劇、舞踊、古典芸能）、映画、映像など様々な分野の専門家から選抜し、独自の切り口を通して表現を体験した。平成30年度はパントマイム・朗読・戯曲・能を実施。					受講者：のべ115人
33	**せんだい短編戯曲賞**	通年	演劇工房10-BOX他	1,719	1,719	市補助金 1,719
	演劇の根底となる戯曲をつくる若手劇作家の活動にスポットをあてる「第6回せんだい短編戯曲賞」を開催。平成29年度に募集した作品から、選考委員（制作者）5名が大賞作品を選考した。最終候補作品（平成30年度は10作品）を冊子化した。					応募数：188作品
34	**能-BOX　経常事業**	通年	能-BOX	559	559	受講料 86 市補助金 473
	能楽施設「能-BOX」を活用し、能楽、他の古典芸能、民俗芸能など、和の文化への親しみと理解を深めるため、①「こどものための能講座」（指導：山中迂晶）、②「能のおけいこ体験講座」（指導：仙台市能楽振興協会ほか）を行った。③4月と10月の年2回開催される「卸町ふれあい市」にて、仙台卸商センターとの協働で能-BOXを来場者に紹介する事業「能-BOXへようこそ」を開催した。4/14「モンゴルの風。馬頭琴コンサート」、10/20「南京玉すだれ・筑波山ガマの油売り口上」					①受講者：31人 ②受講者：34人 ③入場者：359人 （222人＋137人）
35	**共通経費（事業間連携活動等事務費）**	通年	演劇工房10-BOX他	843	311	刊行物販売 210 市補助金 101
	劇都仙台事業や教育・福祉など他の専門組織との協働事業等にかかる共通の経費。ホームページの更新費や発送料の支出、せんだい短編戯曲賞の冊子印刷・販売などを行った。					
36	**演劇－社会アクセス事業**	通年	演劇工房10-BOX他	200	0	
	音響・照明等の機材貸出や、各団体の舞台芸術活動への協力を通して、舞台芸術による社会貢献の促進を図る活動。さらに、教育現場での演劇の次代の担い手を重点支援するため、小学校での学習発表会のサポートや高等学校演劇協議会との共催による「仙台市高等学校演劇祭」を実施した。					参加者：260人
37	**音声学ワークショップ**	通年	演劇工房10-BOX他	0	0	
	磯貝メソッドに基づいた音声学講座。俳優の声と身体を見つめ直し、良い声を作るための呼吸法・発声法・発語法を学ぶ専門的なカリキュラムによる人材育成事業。プロのスキルの養成だけでなく、初心者の指導も行い、3月25日には1年間学んだ成果を披露する発表公演を事務局を担うIMS磯貝メソッド仙台塾と共催で実施した。					参加者：70人
38	**大衆紙芝居ネットワーク事業**	通年	演劇工房10-BOX他	0	0	
	当事業団が平成17年度に実施した「大衆紙芝居ワークショップ」の参加者による団体「大衆紙芝居ネットワーク」の自主活動（オリジナル作品の製作、上演、作品展など）に共催し、ロッカーの提供、作品の保管・貸出、機材提供などの協力を行った。					参加者：10人
39	**スタ☆ラボネットワーク**	通年	演劇工房10-BOX他	0	0	
	当事業団が平成20年～23年に実施した「コンセントがあればどこでも舞台」（劇場版舞台技術講座に対して、日常の空間にコンパクトな機材による照明や音響効果を加えて表現の可能性を広げるもの）の参加者による団体「スタ☆ラボネットワーク」の技術勉強会及び公益的活動を応援し、稽古場や機材の貸出などを行った。					参加者：10人

⑥創造都市推進事業

仙台市との共催事業。市民が芸術文化に触れる機会を創出することで、魅力と活気あふれる都市づくりを推進した。

40	**地下鉄駅コンサート**	9/22～23、 9/29～30	地下鉄駅構内	1,168	1,168	市負担金 1,168
	仙台クラシックフェスティバル2018の関連事業として、市内及び周辺地域を活動拠点にしている団体等が出演し、仙台市地下鉄の駅構内（仙台駅・旭ヶ丘駅）を会場に、市民が気軽に立ち寄れる無料コンサートを4日間にわたり開催した。					来場者：6,690人 参加者：30組150人

⑦2020年東京オリンピック・パラリンピックに向けた「仙台市文化プログラム」事業

41	**仙台市文化プログラム事業**	通年	―	5,588	5,588	市負担金 5,588
	①「仙台市文化プログラム」公募・共催事業：オリンピック・パラリンピックを契機として、地域の文化芸術分野における様々な資源を生かした事業を推進し、新しい成果を生み出すこと、そしてその取り組みや成果がオリンピック・パラリンピック終了後も地域の「レガシー（文化遺産）」として末永く継承されていくことを目的に実施。今年度は一般公募により採択された「せんだいコンセキ発掘塾」（前年度からの継続事業）、「SHIRO　Atelier & Studio －ともにつくる芸術劇場－」、「二重のまち／交代地のうたを編む」の3事業を、企画提案者と仙台市、事業団の3者協働で開催した。 **②beyond2020プログラム認証事務**：仙台市が「beyond2020」認証組織となり、事業団はその認証事務の一部を担った。					①総参加者・来場者：3,534名 ②認証数：38件

⑧土井晩翠顕彰事業

42	**土井晩翠顕彰事業**	通年	―	933	933	刊行物販売他 119 市負担金 814
	平成29年度末をもって解散した土井晩翠顕彰会の事業を引き継ぎ、詩人・土井晩翠の業績と遺徳を顕彰する事業を行った。晩翠わかば賞・あおば賞の募集と賞の贈呈、ならびに毎年10月19日の土井晩翠の命日に仙台文学館において「荒城の月市民大合唱」などを実施した。また晩翠草堂の展示品の管理と展示内容の充実に努めた。					

⑨育成・普及事業

子どもたちが芸術文化に触れる機会を広く提供するとともに、アーティスト及び指導者の育成を図った。

43	**東京藝術大学音楽学部早期教育プロジェクト**	11/4、12/8,9	日立システムズホール仙台	905	0	
	仙台及び東北地域における音楽教育の振興のため、東京藝大、仙台市、仙台市市民文化事業団の共同主催により、事業団設立30周年記念事業として始まった。平成30年度は木管楽器＋ホルン部門(11/4)、ヴァイオリン部門(12/8)とピアノ部門(12/9)の3部門を実施した。日本最高レベルの音楽教育に触れることで、地域で音楽に取り組む子どもたちのモチベーション及び技術の向上、地域で音楽教育に取り組む指導者の指導力向上、音楽教育・演奏技術への市民の理解を深める催しとなった。					受講生:37人 入場者:748人
44	**芸術家派遣事業**	5月～2月	各学校・地域	0	0	
	文化庁から「仙台市文化芸術による子供の育成事業実行委員会」が業務受託し、学校や保育所等で子どもたちに文化活動や鑑賞の機会を提供した。今年度実績として120箇所に派遣実施。当財団は実行委員会事務局として、文化庁との調整、実務統括、会計等を担当。実行委員会の決算額は16,640千円。					市内学校・保育所等120箇所
45	**文学館で言葉を楽しもう**	9/11	各学校・地域	37	0	
	小・中学校の児童生徒に、仙台文学館施設への興味、文学への興味関心を惹起し、感性や表現力、知識を深めることに力点を置いたプログラム。常設展示で紹介されている文学のことばを耳で聞いたりして味わい楽しむワークショップや、市内のお話し会活動をしている団体の協力を得て民話語りの奥深さを味わってもらうようなカリキュラムを実践。30年度は仙台三桜高校を対象に実施。バスを手配し平日の授業枠における文学館への来館・利用のハードルを低くすることで、市内小・中学校の文学館利用を促し、かつ利用した児童生徒の保護者層にも来館を促す契機とした。					参加者:58人

⑩出版事業

事業団の事業成果を出版。仙台発の編集文化の発信にも寄与した。

46	**出版物の販売継続事業**	通年	―	29	266	刊行物販売 266
	①仙台文学館刊行物販売事業:『仙台本のはなし24人でつくりました』『仙台で夏目漱石を読む』『瀬戸内寂聴　生きることは愛すること』『ユキユキドンドン　スズキヘキ詩集』など、仙台文学館ゼミナールの成果品や講義録、また仙台文学館選書として出版したものを継続して販売した。(支出0、収入13) **②『仙台戯曲賞シリーズ』販売事業**:『仙台戯曲賞シリーズ』01～04を窓口販売の他、webサイトからの申込みにより継続して販売した。(支出0、収入5) **③『文化芸術の社会再生力』販売事業**:事業団設立20周年事業記念連続シンポジウム「文化芸術は成熟社会の再生力」における鼎談と講演録を採録したブックレットを継続して販売した。(支出1、収入6) **④『RE:プロジェクト記録集』販売事業**:平成23年度から27年度まで実施した事業「RE:プロジェクト」の、これまでの成果物(『RE:プロジェクト通信』『5年目のRE:プロジェクト通信』)に活動の記録や振り返りを加えて1冊にまとめた本を継続して販売した。(支出28、収入242)					

⑪広報事業等

47	**広報事業**	通年	―	5,241	5,037	市補助金 5,037
	文化情報誌『季刊まちりょく』の発行(年4回)を継続し、当財団の活動や各種外部事業情報に加え、仙台における文化領域の動向を広く市民に広報・紹介した。また紙媒体と連動し、速報力のあるホームページを運営(アクセス件数:年68,536件)するほか、報道機関等への情報提供を随時行った。					
48	**市民文化事業団友の会運営**	通年	―	3,248	1,925	友の会会費 1,925
	市民の芸術・文化鑑賞機会の維持拡大を図るため、友の会組織の運営を継続した。月例通信「市民ぶんかレター」による当事業団事業他の広報、主催及び協力事業への先行予約サービスの提供等を行った。年会費1,000円。					会員:約2,000人
49	**事業団事業全体にかかる共通事務費**	通年	―	1,869	0	
	事業全体の調整、新事業の調査・企画、事業評価、職員研修、臨時的人件費、チケット販売業務等の事務経費等。					

2)ミュージアム等周年記念事業

①仙台文学館開館20周年記念事業

仙台文学館の開館20年を記念し実施した。

50	**20周年事業こまつ座公演 「イーハトーボの劇列車」**	3/16	日立システムズホール仙台	8,041	2,979	入場料 2,979
	仙台文学館初代館長・井上ひさしが座付作家を務めたこまつ座の「イーハトーボの劇列車」を上演。賢治の生涯を、この世に思いを残しながら死の世界へと旅立たなければならない、現代の農民たちによる劇中劇という入れ子構造で描いた戯曲で、井上ひさしの数ある戯曲の中でも上演の呼び声も高い代表作の一つ。演出・長塚圭史、主演・松田龍平という新たな顔ぶれで、賢治の理想と挫折、そしてその根源にあった「東北」の姿を、改めて感じてもらった。					入場者:537人

(2)コンクール運営事業

①仙台国際音楽コンクール事業

2019年に開催する第7回仙台国際音楽コンクールの準備を進めた。

51	**事務局運営**	通年	日立システムズホール仙台	8,641	8,641	市負担金 8,641
	コンクール事務局の運営を行った。					
52	**委員会運営**	通年	仙台市内・東京都内	1,794	1,794	市負担金 1,794
	組織委員会(3/26)、運営委員会(7/3、12/19、1/24)、企画推進委員会(5/15、11/15、3/7)を開催した。					
53	**コンクール事業**	通年	日立システムズホール仙台 東京都内	9,187	9,187	その他 4,407 市負担金 4,780
	第7回コンクール開催の準備を進めた。また、動画データ等による非公開の予備審査(1月)を実施し、19の国と地域から84名の出場者を決定した。ピアノ部門43名、ヴァイオリン部門41名。(19の国と地域)					
54	**広報事業**	通年	日立システムズホール仙台	16,872	16,872	市負担金 16,872
	公式ホームページやSNS、プレスリリース等により、仙台国際音楽コンクール事業の広報活動を行うなかで、第7回コンクール出場者募集に係る広報活動及び開催告知広報活動を展開し、過去最高467名の申込者数となった。ピアノ部門331名、ヴァイオリン部門136名。(39の国と地域)					
55	**ボランティア事業**	通年	日立システムズホール仙台	1,788	1,788	市負担金 1,788
	第7回コンクールでの活動に向けた準備研修等を行うボランティア活動の事務局業務を行った。 ①ボランティア新規募集に向けた活動説明会を開催した。 ②会場運営サポート:コンクール関連事業等の会場運営活動を行った。 ③広報宣伝サポート:ボランティアニュース「コンチェルト」発行、「MAP for SIMC Contestants」(仙台のガイドブック)作成、ボランティアブログ運営等を行った。 ④出場者サポート:コンクール期間中の活動の企画や勉強会等を行った。 ⑤ホームステイ受入れ:受入れ勉強会、受入れガイドブックを作成した。 ⑥ボランティア・プロジェクトチーム:第6回コンクール入賞者2名を出演者に迎え、トークコンサートを企画運営した。					ボランティア登録者:260人 ⑥入場者:535人
56	**第6回仙台国際音楽コンクール 優勝者副賞コンサート**	通年	大阪市他	4,013	4,013	出演料等 1,304 市負担金 2,709
	第6回コンクール優勝者の副賞として、国内オーケストラの演奏会に出演する機会を提供した。 ・ピアノ部門　キム・ヒョンジュン ①仙台フィル第320回定期演奏会(仙台市)(7/13～14) ②アクトシティ浜松ニューアーティストシリーズピアノリサイタル(浜松市)(9/2) ③広島交響楽団第383回定期演奏会(広島市)(9/7) ④第7回コンクール開催記念特別演奏会(仙台市: 2/16)(いわき市: 2/17) ・ヴァイオリン部門 チャン・ユジン ⑤大阪交響楽団第31回いずみホール定期演奏会(大阪市)(10/17) ⑥第7回コンクール開催記念特別演奏会(仙台市: 2/16)(いわき市: 2/17) また、2019年度に実施する副賞の準備を行った。					①入場者:1,024人 ②入場者:193人 ③入場者:1,500人 ⑤入場者:859人 ④⑥ 2/16入場者:541人 2/17入場者:461人
57	**仙台国際音楽コンクール関連事業**	通年	市内各所	7,270	7,270	入場料 598 市負担金　6,672
	①仙台の音楽文化振興を目的に、第6回コンクール入賞者による仙台のアマチュアオーケストラとの共演及び小中学校訪問ミニ・コンサートを開催した。 ②オーディションで選ばれた仙台ゆかりの若い音楽家と仙台フィルメンバーによる弦楽五重奏が共演する街かどコンサート「はばたけコンチェルト」を開催した。 ③第7回コンクール課題曲の柱の一つであるモーツァルトを主題として、前半はその権威でもある運営委員長の海老澤敏氏のレクチャーを行い、後半には若手演奏家をソリストに、特別編成オーケストラとの共演によりモーツァルトの協奏曲を演奏する公演を開催した。 ④世界的にも著名なコンクールである「ヴァン・クライバーン国際ピアノコンクール」で優勝した第5回ピアノ部門優勝者ソヌ・イェゴンの日本ツアーの千秋楽公演として、仙台でリサイタルを開催した。 ⑤第7回コンクール期間に開催する「審査委員によるマスタークラス」の受講生選考会を行った。					①鑑賞者:1,000人超 ②入場者:1,163人 ③入場者:706人 ④入場者:212人

(3)ジュニアオーケストラ運営事業

58	**仙台ジュニアオーケストラ運営**	通年	日立システムズホール仙台他	23,256	23,256	入場料・受講料等 8,195 市負担金 15,061
	仙台ジュニアオーケストラを仙台市と共同で主管した。平川範幸氏を音楽監督とし、通年の練習等の指導は仙台フィルハーモニー管弦楽団に委託した。練習は月3回、指導時間は1回につき3時間を目安として行った。強化練習の一環として8月6日～8日に岩手県花巻市にて夏合宿を行った。 演奏会は①10/28に「第28回定期演奏会」を、②3/24に「2019スプリングコンサート」を開催した。					団員:122人 ①入場者:702人 ②入場者:722人

(4)演劇系練習施設運営事業

59	**せんだい演劇工房10-BOX運営**	通年	演劇工房10-BOX 能-BOX	25,816	25,816	利用料等 6,447 市補助金 19,369
	「試しながらじっくり演劇を作る空間」をコンセプトに、独自のスペース・設備などを弾力的な利用システムにより貸出し、仙台における演劇及びその周辺の表現活動を直接的に支援した。加えて、「劇都仙台」各事業との一体的な運営によって、市民の文化芸術活動を支えた。また、民間より寄贈を受けた能舞台を仙台卸商センターの倉庫に移築した、別館「能-BOX」の運営を行った。					年間利用者: 37,143人 収益事業を含む

(5)震災メモリアル交流施設運営事業

60	**せんだい3.11メモリアル交流館運営**	通年	せんだい3.11メモリアル交流館	51,338	51,338	市受託料 51,338
	地下鉄東西線荒井駅舎に併設され、平成28年2月に開館した「せんだい3.11メモリアル交流館」の運営(①来館者の対応 ②事業の実施 ③管理業務の一部)を、職員常駐の枠組みとして、仙台市まちづくり政策局からの委託事業として行った。「震災の被害や状況を知り、その経験や教訓を学ぶ場」「東部沿岸地域の記憶を残し、継続的に地域再生への力を形成していく場」「東部沿岸地域への案内所・発着点」としての施設機能をもち、様々な来館者・市民・住民の集う親しみやすい運営に努めた。 【企画展(関連企画のワークショップ等含む)】 ①MIYAGI 1951～米軍医のまなざし、戦後6年の沿岸部 5/1-8/26 ②せんだい3.11メモリアル交流館を囲む風土展＃3「竹であそぶ」 9/4-1/14 ③3.11現場の事実×心の真実 それでも、下水は止められない。～東日本大震災・南蒲生浄化センターの知られざる闘い 1/22-7/7 【その他事業】 ・メモ館談話室vol1～vol.4の開催 ・海辺散策 ・交流スペース東北被災地域紹介＆地サイダー販売 ・メモリアルシアター ・メモ館だよりvol.1～vol.3の発行					年間入館者: 59,022人 企画展来場者: (他、関連企画参加者) ①15,405人 (120人) ②11,611人 (506人) ③7,701人 (202人)*3/31 協力事業: 41件

(6)芸術文化受託事業

61	**市制施行129周年記念コンサート**	7/2	仙台銀行ホール イズミティ21	4,173	4,173	市受託料 4,173
	仙台市の市制施行記念式典の一環として、ソリストに第6回仙台国際音楽コンクールヴァイオリン部門第6位の岡本誠司氏を迎えて仙台フィルハーモニー管弦楽団の演奏会を開催した。					入場者:1,287人
62	**せんだいメディアテーク震災アーカイブ運営**	通年	せんだいメディアテーク	13,203	13,203	市受託料 13,203
	大震災を受け、震災とその復旧・復興の過程を、市民・専門家・スタッフが協働して記録・発信し、「震災の記録・市民協働アーカイブ」として整理・保存する取り組み「3がつ11にちをわすれないためにセンター」を運営した。具体的には、①写真や映像等で記録し、②資料活用に向け、アクセス可能なメタデータなどを整備し保管した。③収集した資料の一部を、ウェブサイトを通じて配信し、④ライブラリーへの配架、上映会や展覧会の開催など、さまざまな形で利活用した。					公開コンテンツ: 映像5本、写真68枚 ウェブ閲覧数: 約1,987,568回 上映会:のべ169人 展示:のべ2,704人 (3/7-11分)

2. 定款第4条第2号の事業(文化芸術等に関する普及啓発及び情報発信)

番号	事 業 名	期 日	会 場	支出	収入	収入内訳・備考
	事業内容					入場者数等・備考

(単位;千円)

①仙台文学館普及啓発事業

63	**特別展・企画展の関連事業**	各展示の開催時期	仙台文学館	838	1,211	販売手数料等 1,211
	特別展・企画展の会期中に、展示テーマに関連する様々なイベントを開催し、文学のより深い魅力の発信に努めた。 **①特別展「田沼武能写真展 時代を刻んだ貌」関連**:アマチュア写真家を講師に迎え、スマートフォンやデジカメを使って、気軽に写真を撮影するワークショップを開催した。 **②「こども文学館 えほんのひろば」関連**:市内で活動するグループによるお話会や、講演会、手作り教室を開催した。 **③企画展「新収資料展」関連**:資料寄贈者によるトークイベントなどを開催した。 **④特別展「連載40周年記念 ガラスの仮面展」関連**:関係者によるサイン会などを開催した。					参加者: ①44人 ②1,376人 ③89人 ④198人

64	**ことばの祭典－ 短歌・俳句・川柳への誘い**	6/17	仙台文学館	420	420	市補助金 420
	短歌、俳句、川柳の3部門による合同吟行会。文学館の敷地内を中心に吟行し、当日発表される題に沿って作られた作品から「ことばの祭典賞」を選んだ。					参加者:150人
65	**文学講座、講演会等の開催**	通年	仙台文学館	1,954	2,045	受講料 2,045
	文学を豊かに味わう、深く学ぶ、自ら表現するといった主体的なニーズに応え、幅広いテーマによる講座や参加型イベントなどを実施し、文学の振興を図った。 **①小池光短歌講座**:館長の歌人・小池光による短歌の鑑賞と実作指導の連続講座。通年で10回開催した。 **②仙台文学館ゼミナール**:近代文学を読み解くコース、現代文学を探究するコース、古典に親しむコース、表現をみがくコースなどの部門を設け、各講座をそれぞれ3～5回連続で開催した。 **③仙台朗読祭、詩のリーディングイベントなど**:広く一般市民に参加を募り、思い思いの作品を自由に朗読してもらう仙台朗読祭や、地元詩人によるポエトリーリーディングなど、文学作品の朗読イベントを行った。					参加者: ①754人 ②1,956人 ③330人
66	**教育機関・関係者との連携事業**	通年	仙台文学館	0	0	
	県内高等学校の文芸部の活動を支援するほか、図書室や国語を担当する教員への研修機会の提供、小中高を通しての調べ学習や職場体験、フリースクールの校外学習への協力等を随時行った。					件数:21件・432人
67	**学芸員出前講座**	通年	―	0	0	
	市内を中心に近隣の学校や市民センターなどに学芸員が出向き、宮城の文学やこれまでの企画展で取り上げた文学者についての講座を行った。					件数:19件・1,104人
68	**情報誌の発行**	通年	―	1,128	861	市補助金 861
	文学に関する話題を幅広く発信していく情報誌の発行を継続した。文学者からの寄稿のほか、仙台の新しい文学を取り上げた企画等内容の充実を図った。					
69	**こどもの本の部屋の運営**	通年	仙台文学館	0	0	
	絵本を中心にこどもの本を自由に読んでもらうコーナー。文学館の展示観覧は難しい小さなこどもたちも、保護者とともに楽しめるように、季節やイベントなどに合わせ本の入れ替えなども行い活性化を図った。「こどもの本の部屋」を会場とした、近隣児童館との連携による乳幼児向け事業も実施した。					
70	**文学館友の会の支援**	通年	―	0	0	
	会の事務局を担当し、文学館との共催事業や見学会の開催、会報の発行などを実施した。					
71	**出版物等の販売**	通年	―	353	156	刊行物販売 156
	小池光短歌講座の記録集を制作・販売した。また、平成16年度に発行した文学館選書『天地有情』の他、企画展関連の物品も館内で継続して販売した。					

3. 定款第4条第5号の事業（文化芸術等に関する生涯学習の支援）

番号	事　業　名	期　日	会　場	支出	収入	収入内訳・備考
	事業内容					入場者数等・備考

（単位;千円）

①せんだいメディアテーク　展覧会等総合事業						
72	**せんだい・アート・ノード・プロジェクト**	通年	せんだいメディアテーク	34,117	34,117	市補助金 32,517 助成金 1,600
	優れた現代アートのもつ発見性、吸引力、発信力を取り込みながら、市民とともに地域が抱える課題に向き合うアートプロジェクトを展開することで、まちの魅力と人々の活気を引き出し、文化都市仙台を発信する事業を行った。 **①川俣正/仙台インプログレス**:「みんなの船」を制作し地元のイベントに参加した(8月)。また活動報告展を開催した(2/1～3/17)。 **②藤浩志/ワケあり雑がみ部**:活動のほかリサイクル工場見学で啓発にも力を入れた(5月～8月)。仙台七夕の時期にあわせ成果発表を実施した(8/4～8)。 **③東北リサーチとアートセンター** ・Playmakers SENDAI:3年間の活動を報告する記録冊子「KOSUGE1-16のあそび考」を制作した。 ・「千年のしらべ　瑞巌寺・埋木書院一日鑑賞会」を通じ、地域資源でもある埋木の価値を広めた(8/26)。 ・しらべの細道vol.3展覧会「進化する野帳　考古学者河内一浩の記録生活」を実施した(2/22～4/29)。 ・運営パートナーによる展覧会「とある窓」(11/2～12/24)「あわいゆくころ」(1/11～2/11)と関連イベンなどを実施した。 **④TALK(トーク)**:協働者の企画によるトークを実施し、人材育成と市民啓発の機会とした(10月～3月に9回実施)。 **⑤アートノード・ミーティング**:プロジェクトをひらく公開討論会を実施した(8/5)。 **⑥ジャーナル**:事業を発信するために広報紙を発行した(10月、3月)。					参加者:15,472 人 (うち仙台インプログレス6,523人、雑がみ部5,977人)

73	**展覧会事業**	通年	せんだいメディアテーク	15,482	15,482	市補助金 7,583 入場料他 869 助成金 7,030
	国内外で活躍するアーティスト(芸術家)や地域の市民活動団体が協働し、地域の歴史や社会的課題をリサーチ(調査)し、その成果を展覧会などによって発表(表明)することで、再び地域へ還元していく事業を行った。 「調査と表明」の3年目として、身体を用いて土地を体験的に知る行為「フィールドプレイ」を各地で実践し、国内外から注目されているアーティストグループ「ヒスロム」が、28年度から調査や制作作業をおこなってきた成果を展覧会として発表した。					①入場者数:4,995人 関連企画参加者:465人
74	**スタジオ情報発信/地域文化アーカイブ**	通年	せんだいメディアテーク	3,148	3,148	市補助金 2,098 助成金 1,050
	市民間の交流、対話を促進するための対話の場／機会／メディアを用意した。 ・「考えるテーブル」など、誰もが参加可能な対話型公開会議を中心に、市民力の醸成、市民の主体的な社会参画が文化面から活性していくことを目指すとともに、さまざまなアートやメディアにまつわる文化活動への支援を行った。また、それらの「スタジオ協働事業」の成果をウェブサイトやさまざまな機会を通し広く発信した。 ・市民の自発的な地域文化財のデジタル化により、保存、活用を促す取り組みを行った。成果物は、メディアテークに保存し、ライブラリーへの配架、ウェブサイト等での発信など、広く市民に活用される「財」とした。また、それらをもとにした「ラウンジ展示」(民話、どこコレ、等)を行うことで、仙台市域のさまざまな文化活動へのより広く深い市民の関心を促した。これらの取り組みにより、国内に例のない地域文化にまつわる映像の蓄積＝デジタル・アーカイブを形成し、将来においての財産となるよう構築した。					
75	**発信・施設活用推進**	通年	せんだいメディアテーク	4,011	4,011	市補助金 3,603 入場料他 108 助成金 300
	各種団体との連携を通じ地域におる役割を担うとともに、市民図書館を含めたメディアテークの総合的な情報アクセス機能の活性を促すことで、常に時勢に応じた魅力あるメディアテークを展開した。 **①バリアフリー・デザイン事業**:目や耳の不自由な人々の主体的な情報アクセスを促進するための点字翻訳、音声解説、字幕制作等のデータ作成を市民との協働で行った。成果物を活用した上映会等の開催、作成に関わる人材の育成、技術向上に向けた一連の取り組みを行った。 **②館長発信事業**:発信力ある鷲田清一館長を軸に、著名なゲストとのトーク等の開催を通じ、市民のニーズをつかみつつ、メディアテーク全体の新しい姿を示した。併せて、館長の動向を伝える情報発信なども行い、より広い理解へと努めた。 **③地域文化連携・施設活用推進**:各種団体との協働や連携・ネットワークを用い、地域におけるメディアテークの役割を担いつつ、オープンスクエア、ギャラリー、シアター、ライブラリーなど館全体の機能を活かしたイベントや展示や上映会など多様な活用事例を示した。さらに、市民図書館とは収蔵資料を活用したイベントを開催し、より広い関心を集め、交流を促進する機会をつくった。					参加者: ①272人 ②471人 ③19,563人

4. 定款第4条第1号、第2号、第3号、第4号、第5号及び第6号の事業(市民の文化芸術及び郷土の歴史に関する活動等の支援及び育成、普及啓発及び情報発信、交流及び協働の促進、資料の収集、保管及び調査研究、生涯学習の支援、文化施設及び生涯学習施設の管理運営)

番号	事 業 名	期 日	会 場	支出	収入	収入内訳・備考
	事業内容					入場者数等・備考

(単位;千円)

(1)仙台市歴史民俗資料館 管理運営・調査研究・普及啓発事業

76	**仙台市歴史民俗資料館 管理運営**	通年	歴史民俗資料館	59,144	59,144	市指定管理料 59,144
	歴史や民俗に関する展示等を行い、学校教育や生涯学習活動を支援する場所として、仙台市有形文化財である本館建物の維持管理を行った。					
77	**仙台市歴史民俗資料館 常設展示**	通年	歴史民俗資料館	178	178	市指定管理料 178
	「仙台地方の農具と農家の暮らし」「仙台 町場の暮らし」「旧歩兵第四連隊コーナー」「体験学習室」に加え、「花見」「仙台の正月」等のミニ展示をロビー及び展示室で展示紹介する。また、震災関連展示を行った。					年間入館者:27,842人
①特別展・企画展及び関連事業						
78	**企画展「灯りのかたち」**	4/28～7/1	歴史民俗資料館	42	42	市指定管理料 42
	かつて電気がなかった時代、人々は灯りを手に入れるために松の木や椿油・荏胡麻・菜種油などの植物油、魚油などを燃料とし、またそれらを燃やすための様々な道具を作り出した。企画展では、行灯やロウソク、提灯、ランプなどの資料を通じて、今日の電気にいたる灯りの原料や灯火具の変遷、生活の移り変わりについて考えることができた。					観覧者:7,992人
79	**企画展「仙台古地図の旅2」**	7/14 ～11/4	歴史民俗資料館	1,129	1,129	市指定管理料 1,129
	明治時代、大正時代、昭和初め、戦時中における近代仙台の地図を中心に、さらには城下絵図や戦後、現代の地図などの資料も紹介し、仙台の街の移り変わりを明らかにした。城下町仙台から近代都市仙台の成立、展開、杜の都、学都、軍都の特徴、商工業と繁華街の変遷、戦前と戦後の変化、戦後復興期などを絵図、地図、写真資料などから振り返り、その歴史的な意義について考えることができた。					観覧者:9,299人

80	**特別展「コメどころ仙台 ～コメの生産と消費の歴史～」**	11/17～4/14	歴史民俗資料館	1,096	1,096	市指定管理料 1,096
	江戸時代以来、コメの生産地として知られた仙台平野とコメの消費地として人が集住した城下町・仙台の変遷から、機械化される以前のコメ作りの様子と現在のコメ作りが抱える問題点、コメ離れが進む食文化の変化などについて紹介し、コメを中心にしたかつての人々のくらしを振り返ることができた。					観覧者:7,930人
81	**講座・体験イベント等**	通年	歴史民俗資料館	74	74	市指定管理料 74
	①資料館サポーター養成講座（7月～3月）:「資料館の魅力について～展示・収集・調査研究・教育普及～」のタイトルで、資料館の事業活動や資料の活用方法を考えながら、民俗文化財や歴史資料の意義をとらえ、参加者のさまざまな活動につなげていくことができた。 **②子ども講座**（7月、1月、3月）:おもに小学生を対象に、仙台地方の歴史や民俗をわかりやすく解説するために紙しばいの講座を開催した。 **③ゴールデンウィーク「おもしろ昔たいけん」**（4/28～5/6の7日間）:なつかしい玩具「竹とんぼ、水鉄砲」のボランティア講師による製作実演や、生活用具「石臼ひき」、コマ回し、フラフープ、ホッピングなどの遊びの体験を行った。 **④クイズラリー**（夏休み・冬休み）:クイズやパズル形式での自主見学学習を行った。 **⑤たんけん資料館「れきみんバックヤード・ツアー」**（8月、10月、2月）:展示室、収蔵庫や資料整理室など普段見ることができない資料館のバックヤードを学芸員が解説案内する見学会を開催した。 **⑥ホームムービーの日**(10/20):家庭に埋もれているフィルムを持ち寄り地域の貴重な映像を発掘し、公開した。					参加者: ①4人×2回 ②30人 ③6,113人 ④177人 ⑤56人 ⑥42人
82	**資料館だより等の発行（その他の事業）**	通年	歴史民俗資料館	98	98	市指定管理料 98
	資料館だよりの制作や、資料館の活動チラシを作成し、学校、町内会、関係各所、入館者への配布を行い資料館を利用した社会科学習の助けとした。					
83	**歴史民俗資料の収集・保管**	通年	歴史民俗資料館	1,780	1,780	市指定管理料 1,780
	資料の有効活用を図るための整理・修復作業を行うとともに、資料台帳のデジタル化を推進し、「資料集」をまとめ刊行した。					
84	**調査報告書等の発行**	通年	歴史民俗資料館	820	820	市指定管理料 820
	仙台地域を中心に民俗（民間伝承）、近現代の庶民生活に係る「聞き書き」等の調査を実施し、「調査報告書」にまとめ、刊行した。また館蔵資料の公開、活用のため「資料集」を編集・刊行した。					
85	**学校教育との連携**	通年	歴史民俗資料館	0	0	市指定管理料 0
	学校教育との連携促進を目的として実施した事業。小学校3年生社会科の学習および総合的な学習の時間の際、年間100校を超える市内外の学校が見学に訪れ、石臼挽きなどを体験した。8月には、学芸員資格を目指す大学生の単位取得のために必要な実務実習を受入れ、近隣中学校より職場体験の生徒の受け入れも8月と11月に実施した。					

（2）仙台市富沢遺跡保存館　管理運営・調査研究・普及啓発事業

86	**仙台市富沢遺跡保存館 管理運営**	通年	富沢遺跡保存館	85,813	85,813	市指定管理料 85,813
	旧石器時代に関連する展示等の事業を実施し、学校教育活動や生涯学習活動を支援する場として、富沢遺跡保存館を維持管理した。					年間入館者: 38,729人
87	**仙台市富沢遺跡保存館 常設展示**	通年	富沢遺跡保存館	12,432	12,432	市指定管理料12,432
	地下1階の富沢遺跡の発掘調査面の展示、1階での調査結果の展示、及び「氷河期の森」（植生復元）の野外展示を総合的に行った。					

①特別展・企画展

88	**企画展「−仙台の遺跡めぐり−　古墳時代がはじまったころの仙台」**	4/20～6/17	富沢遺跡保存館	44	44	市指定管理料 44
	近年、仙台市内の発掘調査が進み、多くの調査成果が蓄積されている。春季企画展は、仙台市内の遺跡から出土した資料を中心に、身近な文化財を紹介するシリーズとして開催した。今回は仙台平野の古墳時代前期の遺跡を中心に、最近話題となった入の沢遺跡（栗原市）の資料など関連する資料も紹介した。					入館者:9,124人
89	**特別企画展「米づくり はじめました」**	7/20～9/24	富沢遺跡保存館	1,956	1,956	市指定管理料 1,956
	東北地方を中心として、東日本でみつかった弥生時代から古墳時代の水田跡と稲作に関わる道具を紹介し、富沢遺跡で見つかった水田跡や関連資料と比較しながら展示を行った。					入館者:9,157人
90	**企画展「カオの考古学」**	10/19～12/16	富沢遺跡保存館	64	64	市指定管理料 64
	仙台市内の遺跡から出土した土偶・岩偶・土器などカオの表現のある資料を中心として、関連資料や写真パネルの展示を行った。					入館者:5,138人

91	**企画展「もりの風景2018」**	1/15～3/10	富沢遺跡保存館	12	12	市指定管理料 12
	富沢遺跡保存館で行われた当年度事業と、ボランティア会などの活動等を紹介するとともに、フォトコンテスト氷河期の森・縄文の森の風景2018の作品展の展示を行った。					入館者:3,933人
92	**講座・体験イベント・ボランティア事業等**	通年	富沢遺跡保存館	1,183	1,183	市指定管理料 1,183
	①地底の森フェスタ2018(10/8):屋外を会場とし自由参加の形態で開催した。石器を作る、石器を使う、火起こしをする、槍を投げるなどの体験活動を、ボランティア会とともに企画実施した。 **②考古学講座**(11/23、1/26):考古学や環境に関するテーマについて多方面から様々な視点で最新の成果を紹介する講座を実施した。 **③たのしい地底の森教室**(通年):当館スタッフが、富沢遺跡発掘の成果や「氷河期の森」の植物の説明、石器づくりなどのモノづくり体験を行い、古代の技術や地底の森ミュージアムの特性を紹介する活動を行った。また、「冬キラ」や「森を育てる」など、これまで自主財源事業として実施し好評を得た事業も行い、施設の魅力を多様な観点から紹介する事業として位置付けた。土・日・祝を中心に毎月1～2回程度実施した。 **④利用学習事業**(通年):小・中学校(小学校5・6年生及び中学校1年生)を対象に、主に社会科学習の一環として当館を効果的に活用する利用学習授業を実施した。授業内容は館内外の見学と石器づくり等の体験学習。実施後、実践内容はWeb公開し、次年度の活動に活かしていく。なお、事業実施にあたっては参加校募集の段階から分館・縄文の森広場の同事業と連携して行った。 **⑤市民文化財研究員育成**(通年):考古学に対する市民の学習活動を支援するため、公募による10人を対象に、1年間にわたり週1回館学芸員が支援する活動日を設けた。成果は活動報告書にまとめた。 **⑥ボランティア育成**(通年):市民文化財研究員修了者の中の希望者及び公募による申込希望者に展示解説や行事の際の業務補助などを行うボランティアの育成として、養成講座・研修会・自主研修活動の支援を行った。 **⑦地域や大学との連携**:地域のイベントである太白区民まつりに参画したり、学生ボランティアとの協働事業を行うなど、地域や大学との連携を図った。 **⑧富沢ゼミ**(12/14、2/8):富沢遺跡と近隣の遺跡を主に紹介する講座を実施した。					参加者: ①のべ1,590人 ②のべ138人 ③のべ1,658人 ④のべ22校1,495人 ⑤1人 ⑥登録者:70人 ⑦太白区民まつりイベント142人 学生サポーター登録者27人 ⑧のべ90人
93	**研究報告の刊行**	通年	富沢遺跡保存館	224	224	市指定管理料 224
	富沢遺跡保存館(地底の森ミュージアム・縄文の森広場)の館職員・ボランティアなどによる調査研究活動や研修の成果を研究報告としてまとめ、刊行した。					
94	**ポスター・図録等の印刷・刊行**	通年	富沢遺跡保存館	1,233	1,233	市指定管理料 1,233
	4回分の企画展ポスター・チラシを作成した。なお、特別企画展については展示図録を刊行した。					
95	**資料の収集・保管**	通年	富沢遺跡保存館	0	0	
	仙台市教育委員会で所蔵している旧石器時代に関する資料等を借用・保管し、適切な管理を行い館の活動に活用した。					
96	**遺構の各種分析調査**	通年	富沢遺跡保存館	358	358	市指定管理料 358
	保存公開している遺跡の現状を定量的に把握することを目的とし、展示室内の温湿度計測を行った。併せて保存処理検討会を開催した。					
97	**次年度事業準備・その他**	通年	富沢遺跡保存館	153	153	市指定管理料 153
	2019年度の特別企画展に向けた資料調査や出展交渉、及びその他の企画展・体験教室等についての資料調査等を行った。 また開館から22年を経過し、常設展の内容が最新の研究成果を反映していないところが増えてきており、展示内容や方法を検討するために有識者を招き指導・助言をいただく場を設けた。					

②地域との連携事業

98	**運営懇談会**	8月、3月	富沢遺跡保存館	27	27	市指定管理料 27
	富沢遺跡保存館の運営に理解と協力を得るために事業を紹介したり、館の運営や事業に活かすことを目的に意見やニーズの聴取を行ったりするための場を設けた。8月は近隣の小学校を対象とした懇談会を行い、3月には縄文の森広場を含め、展示や事業内容を検討するために有識者を招き指導・助言をいただく場を設けた。					参加者: 8/22 9人 3/28 10人

(3)仙台市縄文の森広場管理運営・調査研究・普及啓発事業

99	**仙台市縄文の森広場 管理運営**	通年	縄文の森広場	41,882	41,882	市指定管理料 41,882
	縄文時代に関連する体験活動や展示等の事業を実施し、学校教育活動や生涯学習を支援する場として、縄文の森広場を適切に維持管理した。					年間入館者: 30,907人
100	**仙台市縄文の森広場 常設展示**	通年	縄文の森広場	14,594	14,594	市指定管理料 14,594
	施設内展示及び野外展示を適正な状態に保つ。特に、屋外展示の復元住居や植栽は、縄文時代の雰囲気を伝える重要な展示品として、適切な維持管理や環境整備を行った。					

101	**コーナー展示「仙山交流」**	通年	縄文の森広場	141	141	市指定管理料 141
	仙台市域の遺跡を中心に、発掘調査から明らかとなった縄文時代の人々の暮らしについて、仙台・山形の遺跡を中心として紹介しながら実施した。 **①「仙山交流in仙台-上野遺跡と出土品-」**(3/16～6/10):仙台市太白区の上野遺跡で発見された縄文時代の遺構・遺物を紹介した。 **②「仙山交流in山形-西海渕遺跡と出土品-」**(7/13～10/21):山形県村山市の西海渕遺跡で発見された縄文時代の遺構・遺物を紹介した。 **③「蔵王山麓の縄文ムラ-蔵王町谷地遺跡-」**(12/1～2/11):蔵王町で発見された縄文時代の遺構・遺物を紹介した。 **④「仙山交流-下ノ内浦遺跡と出土遺物-」**(3/15～6/9):仙台市太白区の下ノ内浦遺跡で発見された縄文時代の遺構・遺物を紹介した。					観覧者: ①3,740人(4/1～) ②3,269人 ③706人 ④349人(～3/31)
102	**縄文まつり**	5/13、7/16、10/6、2/3	縄文の森広場	1,267	1,267	市指定管理料 1,267
	季節ごとに開催する自由参加イベント。その日だけの体験コーナーや近隣小学校の音楽演奏なども取り入れて、計4回実施した。 5/13春まつり、7/16夏まつり、10/6秋まつり、2/3冬まつり					参加者: 5/13 411人 7/16 620人 10/6 293人 2/3 388人
103	**普及啓発事業**	通年	縄文の森広場	1,939	1,939	市指定管理料 1,939
	①団体予約:子ども会、町内会等の各種団体対象の展示解説や縄文体験を実施した。 **②随時体験**:来館者を対象とし、様々な縄文体験メニューを提供した。 **③体験講座**:「週末体験講座」「夏休み子ども考古学教室」「発掘調査体験教室」「森でみつける『じょうもん』」など、各種体験教室を実施した。 **④特別イベント**:春・夏・秋・冬の長期休業期間にあわせた、誰でも楽しめる体験イベント等を実施した。					
104	**縄文講座**	12月～2月	縄文の森広場	40	40	市指定管理料 40
	縄文時代研究について各分野の第一人者による講演会。毎回公募100人対象。以下の内容で行った。 ①「縄文最新研究 最前線①」(12/9) 「蔵王山麓の縄文遺跡を掘る」鈴木雅氏(蔵王町教育委員会) ②「縄文最新研究 最前線②」(1/20) 「砂丘につくられた縄文晩期の大規模墓地」榊原滋高氏(五所川原市教育委員会) ③「縄文最新研究 最前線③」(2/17) 「湖畔に営まれた縄文晩期の集落群」小野章太郎氏(宮城県教育委員会)					参加者: ①43人 ②78人 ③88人
105	**ボランティア育成事業**	通年	縄文の森広場	168	168	市指定管理料 168
	当館でのボランティア活動を新たに希望される方の養成と、既にボランティアとして登録されている方のスキルアップを兼ねて行う事業。各種体験活動の補助、展示についてのより分かりやすい説明などのための研修事業を行った。					登録者:69名

①学校との連携事業

106	**学校教育との連携**	8月、10月～12月	縄文の森広場	5	5	市指定管理料 5
	学校教育との連携促進を目的として実施する事業。8月には、市内小・中学校の教職員を対象とした、当館の概要説明や体験活動事業を周知するために、教職員利用研修会及び機関研修を実施。10月には、学芸員資格取得を目指す大学生2名の、必要単位を取得するために必要な博物館実務実習を受入れた。10月～12月には、近隣中学校3校より職場体験の生徒を受け入れた。					博物館実務実習:2人 職場体験:13人
107	**利用学習事業**	通年	縄文の森広場	2,325	2,325	市指定管理料 2,325
	小・中学校(小学校5・6年生及び中学校1年生)を対象に、主に社会科学習の一環として当館を効果的に利用する利用学習を実施した。当館利用推進を目的として、授業の実践校に交通費の補助を行い、学校側との綿密な連携のもとに、館内外の見学や各種の体験学習を行った。なお、事業実施にあたっては参加校募集の段階から本館・地底の森ミュージアムの同事業と連携して行っており、平成30年度の応募校は28校であった。					参加者:1,917人

②地域との連携事業

108	**運営懇談会**	通年	縄文の森広場	2	2	市指定管理料 2
	縄文の森広場利用者や地域の方々等に出席いただき、当館の活動を紹介し理解を得ること、またその意見やニーズを把握し、当館の運営に役立てることを目的とし、また、地域と連携した今後の事業を模索する場として2回行った。					出席者: 7月 15人 2月 16人
109	**縄文の森広場縄文畑の活用**	通年	縄文の森広場	0	0	
	縄文畑に展示の一環として育てているソバ・アワ・キビ・ヒエの播種から調理までを体験するなど、子どもたちの活動としてその利活用を図る。また、縄文時代に関する生活体験などを行った。					

③調査研究事業

110	**体験活動メニューの調査研究**	通年	縄文の森広場	309	309	市指定管理料 309
	各種研究成果や実験考古学の成果を生かして、新たな縄文体験メニューやイベントの企画・開発、学校教育との連携事業の推進に取り組んだ。					
111	**復元住居の経年変化及び維持管理に関する研究調査**	通年	縄文の森広場	0	0	
	公開している復元住居の経年変化を把握し、当時の生活実態に合わせた効果的な維持管理の方法を研究した。復元住居の現状確認と今後の維持管理法の方向性を検討し、土葺き竪穴住居の上屋構造に関する調査などを行った。					
112	**ボランティアスタッフとの共同調査研究**	通年	縄文の森広場	0	0	
	当館が実施している各種事業の内容深化、あるいは新規イベントの開発を目的として、ボランティアスタッフと共同で調査研究活動を実施した。					
113	**次年度コーナー展資料調査**	通年	縄文の森広場	2	2	市指定管理料 2
	2019年度に予定している、展示の内容及び展示と連動した体験活動を検討するために、資料調査を実施した。					
114	**資料の収集・保管事業**	通年	縄文の森広場	0	0	
	仙台市で所蔵している山田上ノ台遺跡及び縄文時代に関する資料を借用保管し、適切な管理を行う。また、事業活動の充実を図るため、関連する図書資料等の収集を行った。					

(4)仙台文学館管理運営・調査研究・普及啓発事業

115	**仙台文学館 管理運営**	通年	仙台文学館	186,828	186,828	市指定管理料 186,828
	文学に関する展示などを実施するとともに、文学活動の場や資料の提供を行い、学校教育活動や生涯学習活動を支援することを目的に、入館者の利便に供する施設の管理運営を行った。					年間入館者: 53,801人 収益事業を含む
116	**仙台文学館 常設展示**	通年	仙台文学館	0	0	
	明治から現代の仙台・宮城ゆかりの文学をテーマを設けて紹介した。資料収集の状況に応じて展示替えを行い新しい情報の提供を行った。					

①特別展・企画展

117	**特別展「田沼武能写真展　時代を刻んだ貌」**	4/21～6/24	仙台文学館	1,950	1,950	市指定管理料 1,950
	昭和24年、木村伊兵衛の助手を務めながら、日本における文人や碩学、芸術家の肖像を撮りはじめた写真家・田沼武能。65年間にわたって田沼が撮り続けた肖像写真から、特に文学にかかわりの深い写真、約140点を展示した。日本の文化に確かな足跡を残した人々の相貌から、その心性に思いをはせるとともに、背後に写しとられた「昭和」という時代をあらためて考える契機となるような企画とした。					観覧者:1,380人
118	**夏休み企画「こども文学館えほんのひろば たかどのほうこの世界」**	7/14～8/26	仙台文学館	1,797	1,797	市指定管理料 1,797
	『まあちゃんのながいかみ』をはじめ、50冊以上の絵本や児童書を世に出している児童文学作家・たかどのほうこの世界を展示。日常生活の中で、ちょっと変わった出来事が起こったり、登場人物が不思議な世界に入り込んでいくような作品から、物語をとおして、異世界へと想像力をはせてもらうような企画とした。会期中には作家によるギャラリートークや、絵本作品にちなんだワークショップも開催し、絵本を愛するすべての大人とこどもに向けた企画とした。					観覧者:2,389人
119	**企画展「新収資料展」**	9/1～9/24 12/8～3/31	仙台文学館	464	464	市指定管理料 464
	平成11年の開館以来、仙台文学館には多くの利用者や文学関係者から資料が寄贈されているが、その中から近年新たに寄贈された布施淡(画家・島崎藤村の仙台時代の親友)に関する書簡や、向田邦子の自筆原稿や遺愛の品を紹介した。					観覧者:1,523人
120	**特別展「連載40周年記念　ガラスの仮面展」**	10/6～11/25	仙台文学館	8,127	8,127	市指定管理料 8,127
	1976年に連載を開始し、2016年で連載40周年を迎えた、少女漫画の金字塔「ガラスの仮面」。貴重な漫画原画や、関連資料を一堂に展観し、名シーンを振り返った。少女漫画ならではの乙女のきらめきや恋心、こまやかに表現されるキャラクターの心理描写、そして漫画でしか表現できない演劇の猛稽古や熱く演じられる劇中劇の数々を、原画で存分に楽しんでもらう展示とした。					観覧者:7,323人
121	**新春ロビー展「100万人の年賀状展」**	1/10～2/11	仙台文学館	163	163	市指定管理料 163
	文学館あての年賀状を広く一般から募集した。文学館の住人でもある作家宛の年賀状やゆかりの文学者から寄せられた年賀状なども展示した。					

122	**資料の収集・保管**	通年	仙台文学館	2,214	2,214	市指定管理料 2,214
	宮城・仙台ゆかりの文学者・文学作品に関する資料の収集を行った。収蔵した資料の適切な整理とコンピュータを活用した資料管理を行った。					
123	**次年度事業準備・その他**	通年	仙台文学館	1,040	1,040	市指定管理料 1,040
	2019年春の20周年記念特別展の準備を進めた。また、20周年を機に、常設展示室の一部について展示替えを行うための準備も進めた。					

5. 定款第4条第6号の事業（文化施設及び生涯学習施設の管理運営）

番号	事　業　名	期　日	会　場	支出	収入	収入内訳・備考
	事業内容					入場者数等・備考

（単位；千円）

（1）仙台市青年文化センター管理運営事業

124	**仙台市青年文化センター管理運営**	通年	日立システムズホール仙台	346,748	346,748	市指定管理料 346,748
	平成29年度から5年間の指定管理を受け、その2年目となる当年度は次のとおり施設運営を行った。 (1)利用者が安心・安全に利用できるよう、保守点検等をはじめとする各種点検業務を強化するとともに、火災や震災、外部からの脅威に対してより実践的に対処できる防災体制について、見直しを行いながら取り組んだ。 (2)利用者と積極的なコミニュケーションを図り、利用に関する的確なアドバイスを行い利用者の増加を目指した。 (3)施設利用や芸術文化に関するタイムリーな情報を広く提供するなど広報を強化した。 (4)市民の文化活動の拠点施設及び劇場法にうたう劇場・音楽堂としての役割を担うことを認識し、地域資源を有効に活用するなど工夫しながら各種事業を展開し、より市民に親しまれる施設づくりを進めた。 (5)利用者アンケートの実施や意見箱返答コーナーの設置も継続するなど意見集約を積極的に行いながら業務改善に努めた。 (6)大規模改修に向けてこれまで培った管理運営の知識と経験をいかしながら、施設設置者とともに調整業務を行った。 (7)楽都仙台や劇都仙台の拠点施設として事業の運営サポートを行った。					年間利用者： 319,721人 収益事業を含む

（2）仙台市泉文化創造センター管理運営事業

125	**仙台市泉文化創造センター管理運営**	通年	仙台銀行ホール イズミティ21	127,509	126,664	市指定管理料 126,664
	「仙台市市民文化事業団・東北共立・石井ビル管理グループ」として平成27年度から5年間の指定管理を受けた期間の4年目として、次のとおり施設運営を行った。 (1)市民の芸術文化の振興と育成の場を提供し、自主的な文化活動の拠点となるよう、市民が利用しやすい開かれた施設運営を目指した。 (2)施設利用や公演実施に関する相談に応じ、的確な情報や助言を提供するなど、利用者への支援を充実させた。 (3)適切で丁寧な接客業務を行うと共に、施設貸出しに際してはニーズに応じて弾力的な取扱いも検討し、更にアンケートや「お客様の声」などを参考に、利用者の立場に立った施設運営を行った。 (4)施設の安全な維持管理に努め、各種災害に備えた防災体制をより整備し、省エネルギー、バリアフリーへの取組みを引き続き推進した。 (5)施設を活性化させる事業として、宝塚歌劇仙台公演、泉中央地区プレイガイド事業、市民との協働によるロビーイベント、ホール見学会及びボランティアによるピアノ弾き込み事業、市民ギャラリー等での展示、新春いずみ寄席等を行った。					年間利用者： 264,604人 収益事業を含む

（3）せんだいメディアテーク管理運営事業

126	**せんだいメディアテーク 管理運営**	通年	せんだいメディアテーク	568,632	568,632	市指定管理料 568,632
	市民文化のシンボルでもある定禅寺通に面した立地と、世界に誇る建築デザインという施設の特性を最大限にいかし、人々がさまざまなメディアを通じて自由に情報のやりとりを行う生涯学習の場として、また美術や映像文化などを中心とする芸術文化活動の拠点として、施設・設備の適切な管理運営に努めるとともに、計画的に保全を図った。メディアを活用した生涯学習活動及び文化活動にかかる情報・資料の収集、調査研究及び普及啓発、視聴覚障害者に対する情報活動の支援を行った。また、美術・映像に係わる情報・資料の収集及び提供並びに展覧会、講習会その他の催しを行ったほか、展示や上映のための施設の提供を行った。事業としては協働事業を引き続き発展させ、市民参加型事業を積極的に進めた。博物館施設など地域の知的資源を活用するため、博物館連携ネットワーク「仙台・宮城ミュージアムアライアンス」事務局業務を仙台市教育委員会と共同で担うとともに、学校との連携を図り次世代の育成に取り組んだ。					年間利用者： 374,487人 収益事業を含む
127	**せんだいメディアテーク ライブラリー運営・美術映像文化推進事業**	通年	せんだいメディアテーク	8,963	8,963	市指定管理料 8,963
	映像音響ライブラリー、視聴覚教材ライブラリー、視聴覚障害者情報ライブラリーにおける映像音響資料及びデジタル資料等の収集・整理・提供事業を推進し、市民の情報検索及び閲覧の環境を提供した。また、せんだいメディアテークの事業、および「3がつ11にちをわすれないためにセンター」において集められた震災関連の映像などを含むさまざまな協働による地域の芸術文化活動の記録や制作物を、smtコレクションとして公開し、映像音響ライブラリーと視聴覚教材ライブラリーを通じて提供した。					配架数：441点 smtコレクション： 28タイトル